

183

6

215

東 京 圖 書 館

書 門

釋 書 類

一 函

五 架

五 二 號

六 冊

皇 清 院

御 文 記 事 珠

三



御文記事珠卷第三條箇

二帖目初通

大略ノ字義

大略二三義

メテタク

本望

ソノマ、

信心モウセ候ヘシ

信心ノミソヲサラヘテ等

細々

法水信渠

サラヘテ

アリケニ候

眞實心ニナリタリトイフトモ

女人疑難

女人心移リカタシ

世路

目ニミエテアナル

目ニミエテアナル

アタ

八難

八難

浅マシトイフモヲロカ

才モヒツメテ

才モヒツメテ

信スル心モ念スル心モ



御文記事珠

目一



正定聚ニ住ストモ滅度ニ至ルトモ等

心中作身中誤 フルマヒ 意ヲト、ムヘキ

五十八歳 シルシ カタミ

第二通左十

関山 出立 信ヲ得サレハ无間ニ隨ス

當流ノ正義 承引スヘカラサルノ異義

兼引 諸佛等彌陀一佛ニコモル

牛盜人トハイハルトモ等 牛盜

後世者 善人 佛法者

第三通右三

了條 篇目 三箇條ヲ制スル由

花洛出發ノ日時 吉寄創建 華洛

下旬ノ候 草菴ヲシメテ 一味ノ安心

堪忍 信用 三箇條標釋不齊ノ由

神明ヲ初ニ出ス意 神明右七

カリニ神トアラハレテ 諸神本懷集ノ大意

聊ナル縁ヲモテ等 神明カヘリテ本懷トス

彌陀一佛ニ歸スル内ニコモレル 本師本佛

真言ニ本末ヲワカツ 華嚴ニ主伴ヲ立ツ

イクタヒモ他カヨリ授ラル、 先達

一念ヲモテハ等 御相傳一流ノ肝要

真宗ノシルシ 正本 如件



第四通群

五道六道開合

橫截五惡趣等ノ文義

我計ニテ地獄へモオチス

攝取ノ後捨不捨

惡ヲ好ムハ地獄ヲ願フ

兩山

稱名ヲトナヘテ

言ヲ重ヌル例

入滅ノ昔ヲ思ヒ出ル意

滿六十年曆不違

第五通群

此三四年

數珠

百八結業

當流念珠ヲステス

數珠ハ指ルヘシ

遍數ヲ記スルハ正意ニ非ス

往生ニハ信心ノミヲ要トス

袈裟

曰ニモ出シ色ニモミユル

信ハ恭敬ノ本

佛法者ト見ヘサレト云ニ違セス

譏嫌戒

ウツクシク

本願ノ機ニ相應シタル

身ニハオホエサル

此分

イマハイカ、

中々

不可ナリ

勝事

イツルイキイルヲマタス

第六通群

祖師已來制詞箇條

他宗他人

沙汰セサル意

路次大道

讚嘆

守護地頭

公事

マタクスヘシ



王法ヲオモテトス 出家不拜王親

佛法ニ遇フハ國王ノ恩

當宗コトニ國王ノ恩ヲ知ヘシ 仁義五常

第七通釋

五戒人根等 何レノ時五戒ヲ持テルヤ問答

一旦五 浮生

盛者必衰等 タノミスクナシ

智慧モイラス等 正行ニ歸スル

タノミタテマツルコトハリハカリ

淨土ニヲクリタマフ 安心

ヤスキコ、ロ 義ヲ轉スル例

造作 易往而無人 トリヤスキ信心

第八通釋

諸佛衆生ヲアハレム 難治医療不及喻

諸佛ニ捨ラレタル諸文 イマノコトキノ

ニツモ三ツモ有ヘカラス 往生ノ決定スルスカタ

第九通釋

萬行ヲキラフ 彌陀ヲタノムハ稱我名號

一心一向 第十八ノ願體

忠臣不事二君等 萬善萬行ノ總體

タノモレキ 佛心凡心一ツニナル

第十通釋



他方信心ヲ委知ル 行者ノ心ヲ如來ノ心ト同ナス  
佛心凡心一體ニナル 報土ヘ送ル此土ノ益ニ非ス  
功勞 佛ニナリ極樂ニ往生ス  
正定滅度彼此ノ益 諸佛等ハ信ヲ取シメン方便  
ヲロカ ヌメク

第十一通右十三

牛蛇同飲水喻

十劫秘事

知識タノミ

善知識

五重ノ義ノ因縁

五重ノ次第

信心必具ノ名号ハ稱名

五重ハ平生ノ機

臨終ノ機マタ五重ヲ具ス

如來ノ使

第十二通右十九

等活地獄ノ壽量

ヒマヲ子ヲヒ

睡ヲ誠ムル文

不法懈怠

自行化他ノ道理

第十三通右二十

名望

聖人愚禿ノ化儀

牛盜人

此章五帖目ニ同文アリ

才覺

機法二種ノ信心

必至

スカル

如來ハヨロコビマシク

光明遍照ノ文意

无明業障ノ病

光明ノ縁宿善ノ機ノ次第

他力ノ信心タルコト明カナリ

アリカタキ

才モヒハカリテ



第十四通右三

秘事法門 三門徒

外道ノ法

無間ニシツムヘキ業 苦切ノ訶責惡口罪ニ非ス

簡要 夕ラス 用意

他力ノ信心ヲエタル相 御助ケアリツル有難サ

第十五通右三

西山 鎮西 九品 長樂寺

自餘淨土ノ諸流 一途 本宗ノ意ヲステヤラス

吾祖ニ舊執ナシ 凡身ヲ捨テ佛身ヲ證ス

現生涅槃ノ邪窟 阿彌陀ノ三字ノ訓

對譯二字義ヲ求メス 才サメタスケスクフ

御文記事珠卷第三本

第二帖 初通

抑今度一七午日報恩講ノアヒタニヲイテ等 此御

文ハ十二月八日ノ御捺筆ニシテ毎年報恩講御滿散

ノ翌朝必ス此一通ヲ拜讀スル永式トナレリ世ニ御

深ノ御文トイヒ習ハセリ○大略トハ孟子滕文公上

篇曰此其大略也趙註曰略要也其井田之大要如是也

文類書纂要十二左五曰大略總計料度之辭コレヲノ註

ニヨルニ才ホカタノ意ナリ雪窓老人大略二三義ヲ

存ス一者人ニ約ス謂ク十人ノ中ニ七八人モ信ヲウ

ル故ニ大畧ト云二者法ニ約ス謂ク佛法ニ於テ信ヲ



生スレトモ或ハ機情ニ拘ハリ或ハ淺々レク實ナラ  
スソノ覺悟精シカラス故ニ大略ト云三者推知ノ義  
ナリ謂クオホカタハ信心ヲエタルカト推知レ給フ  
故ニ大略ト云帖外ノ文明十二年七月廿七日ノ御文  
ニモ已前イフトコロノオモムキヲ今日ヨリ廻心改  
悔ノコ、ロナクハマコトニモテ无病善ノ機タルヘ  
キカユヘニコノタヒノ報主往生ハ大畧不定ナリト  
コ、ロウヘキモノナリトノ給フコノ大略ノ言ハ推  
知ノ義ナリト今謂大略信心ヲ決定シタマヘルヨシ  
キコエタリ等ノ御文言ニヨルニ多屋内方モソノ外  
ノ人モオホカタ信心ヲ決定シタル趣ヲ申上タルヲ

聞コシ召シテ悦ハセ給フ御詞ナレハ第二ノ法ニ約  
スル義ヲ允當トスヘシサレハコソ次ニサリナカラ  
ソノマ、ウチステ候ヘハ信心モウセ候ヘシ等ノ御  
勸誠ノ詞アリ思ツヘシ○メテタク本望コレニスク  
ヘカラスメテタクトハ或カ大成舊事六ノ八右本紀神祇ヲ引  
テ天照大神天ノ窟戸ヲ細メニアケテ御目ヲ出シテ  
神樂ヲ奏スル消息アササヲミソナハス諸ノ神悉ク喜悅ス  
人幸吉事ヲ目出タシトイフハ此レソノ縁ナリト云  
説ヲ引ク今謂大成舊事本紀全部七十二卷偽妄ノ書  
ナリ昔ハ鑲板タリシニ官廷命シテ減板セシム取信  
シカタシ今謂メテタクトハ愛シツヘキノ甚シキナ



リメテトハ愛ノ字ノ訓ナリ萬葉集六三振痛ヲフリ  
 タキト訓ス欲スルコトノ甚シキヲタキト云本望ト  
 ハ根本ニ約セハ二尊ノ本望ヨリ初テ蓮如上人弘通  
 ノ本望ナリ○サリナカラソノマ、ウチステ候ヘハ  
 信心モウセ候ヘシマ、トハ聖窓或カ字海ヲ引テ曰儘  
 音儘可有也ソノ可有二任スナリト今謂儘ノ字儘ニ  
 同シ儘ハ仕也或ハ日本紀ニ隨風ノ字風ノマ、ト訓  
 スレハ隨ノ字モ通ス信心モウセ候ヘシトハ讚鉢院傳聞光力  
 故心不断トイセ礼讚蒙光觸者心不退ト釋ス金剛心ヲエ  
 ハ何ソ信心ウセル事アラレヤ謂ク信心ハコレ淨土  
 ノ大菩提心ナリ勸誠スルニ一タヒ信心ヲ獲ハソノ

マ、ウチステヨト勸ンヤ況ヤ上ニ大略信心ヲ決定  
 シタマヘルヨシトノ給フ何ソ信心相續ヲ勸メサラ  
 ンヤ安樂集淳心一心相續心ヲ吾祖二門傳ハ三信相應是一心トノ  
 給フ豈相續心ヲ勸サランヤ涅槃南本經二十三右曰云何  
 菩薩守護一事謂菩提心菩薩摩訶薩常勤守護是菩提  
 心猶如世人守護一子亦如瞎者護餘一目如行曠野守  
 護導者菩薩守護菩提之心亦復如是文處胎經一七過  
 去阿僧祇諸佛世尊等各々於本刹誓願行佛事心雖不  
 退轉常恐隨下劣コレラノ文ニヨルニ淨土ノ大菩提  
 心豈捨テ、相續心ヲ勸メ給ハサランヤ思ツヘシ雪  
 窓老人ハ信ノ躰ト用トヲ分テ今ハ信體ウスヘシト



二ハ非ス信心ノ用タル歡喜アラハレサルヲ云信ノ  
用タル歡喜ナクハ信心モ失セタルカ如クナルヲ誠  
メ給フ例セハ諦觀ノ四教儀ニ為末代鈍根於佛法中  
起斷滅見夫傷慧命亡失法身ト云カ如シコレ法身豈  
亡失スル理アラシヤ顯現スル用ヲ失フヲ亡失法身  
ト云今モ亦然ナリ喩ハ日輪ノ雲霧ニ覆ハレテ日輪  
ノ體モウセタルヤウニ見ユルカ如シト今謂ニ義ノ  
取捨宜キニ隨フヘシ○細々ニ信心ノミソヲサラヘ  
テ彌陀ノ法水ヲナカセトイヘル事アリケニ候コ  
レ古語ヲ接證スト見ユ然ニ何レノ書ニカ出タル的  
據ヲ考ル事ナレソノ類語ヲ引カハ六波羅蜜經六左二

日欲穿智渠引甘露水コノ文ニ依テ解セハ信心ノ智  
慧ヲ智渠ト説キ彌陀大悲ノ法水ヲ甘露水ト説ク密  
部ニヨルニ甘露ハ彌陀大悲ノ別德ノ名ナルカ故ナ  
リ又往生要集上末辯曰如一穿渠溝諸水自流入轉至  
江河遂會大海行者亦爾一發心後諸善根水自然流入  
四弘願渠轉生極樂遂會菩提薩婆若海コレハ行者ノ  
善根ヲ水ニ喩ヘ四弘誓願ヲ渠ニ喩フ○細々トハ杜  
詩ニ宮草霏々承委佩爐煙細々駐遊絲トイフハカス  
カナルヲ細々ト云又雨洗消々淨風吹細々香ト云ハ  
頻々香シキナリ今細々ハ節々ノコトシ實語記ニ處  
々ニコノ言アリ次第ニ微細ニ領解スル意ナルヘシ



○彌陀ノ法水トハ本願ノ生起本末也法水遠流ト云  
 モ同意也水ハ渠ニ流レ法ハ信ニ傳ハル故ニ信心ノ  
 ミソト云○サラヘテハ正字通深ノ字先結切音屑除去也治  
 井也文易ノ卦井卦井渫不食為我心惻ト云五篇註渫不停汚之  
 謂也信心ノ渠ニツモル礙リトハ疑心自力懈怠ニシ  
 テ歡喜ノ稱名等閑ナル等ナルヘシ○アリケニ候ト  
 ハ雪窓老人ノ說ニ問一念發起ノ上ニ何ソ信渠ノ礙  
 トシテサラヘサクヘキヤ答案スルニ今ノ御詞自力  
 勤修引上ノ言ヲ借テ他力相續ノ勸誡トシ給フ故ニア  
 リケニ候ト不定ノ言ヲキ給フ也ト今謂源氏桐壺  
 ニイキモ夕エツ、キコエマホシケナルコトハアリ

ケナレトイトクルシケニタユケナレハト云季吟曰  
 キコエマホシケナルコトハアリケナレト、七左ハ御門  
 へ申度事ハアリサウナレト、ナリ又賢木ニモイタ  
 ツラニイトマアリケナルハカセトモメシアツメテ  
 ト云ハイトマアリサウナルナリ實語記ナトニモ北  
 國ニテハ白衣ニテ候ツルカ袴ヲ著セラレタル方モ  
 アリケニ候トモ昔モ同上九左加樣ニハ御申アリツル事有ケ  
 ニ候ヘトモ朝暮ニハナク候ツルトキコエ申候トイ  
 へリ古語ヲ撻ニ胡亂カマシクアリケニ候ト遊ハス  
 ハ假名フミノ雅ナリ慈鎮ノ閑居友ニ上卷新羅國元曉ノ  
 疏文カトヨ他作自受ノコトハリナシトイヘトモシ



カモ縁起難思ノチカラアリトイヘル疏文カトヨノ  
語ト同シ○ソレニツイテ女人ノ身乃至タスケマシク  
候へ 女人八十方三世ノ諸佛ニステラレタル身十  
ル事第一帖ノ十通目ノ解ノ如シ○ソノユヘハ女人  
ノ身ハイカニ眞實心ニナリタリトイフトモ到アサ  
マシトイフモヲロカナリ 上ヲ承テ諸佛ニ捨ラレ  
タル所以ヲ述へ下ノ文ニ是ニヨリテ一心一向ニ彌  
陀一佛ノ悲願ニ歸シテ等ノ御詞ノ次第ヲ考レハ女  
人ノ性得機相ヲ示シ給フト見ユ如是ナルトキハ眞  
實心ニナリタリト云モ他力眞實ノ信心ノコトニハ  
非スシテ凡夫自力ノ眞實心ナルヘシ又眞實心ノ詞

他力眞實心ニ約ストモ今ハ女人ノ性得ノ機相男子  
トカハリテ疑ノ心ヲカクソノ性柔断ニシテ是ラノ  
心ハナレカクサキ事ヲ示シ給フ也○ウタカヒノ心ハ  
フカクシテトハ正法念經四十九左五一切疑中婦女疑  
大被婦女疑比丘不應婦女疑者少而能燒如火雖少能  
多焚燒被婦女疑如是能燒愚癡軍衆コレラノ文ノ意  
也○又物ナントノイマハシクオモフ心ハ等トハ男  
子ハ剛断ニシテ道理ヲ知テ一刀兩断スルカ如シ婦  
女ハ柔断道理ヲキケトモソノ心移リカタシ普賢行  
願品二十八左七曰女人弊執爲其性如地堅住匪能移文  
寶積經四十四左十二曰一切女人多過失無邊幻誑心多



輕躁心多掉動其心流蕩傾覆不住心似山狛心似猿猴  
 善能示現幻誑之術如是諸相故名女人コレ婦女ノ性  
 益ナキ事ニ執心フカク癡習ウセカタシト也○コト  
 ニ在家ノ身ハ等トハ上ハ通シテ婦女ノ性ヲ述フ今  
 別シテ在家ノ女姓ニ就テコトニトノ給フ也○世路  
 卜西域記ニ左九輕鄙生死稀遠世路文朗詠詩曰朝有紅  
 顏誇世路文女人ノ性淺ハカニシテ夕、眼前ノ務ヲ  
 營ミ子孫ノ榮貴ニ耽ル者也○フケルハ耽ノ字弘決  
 四之二左云曰耽者爾雅云久樂也若從酉者醉酒字耳文  
 ○コレホトニハヤ目ニミエテ等トハ無常轉變ノア  
 リサマ眼前ニ遮ルソレノミナラス帖外第二帖ノ御文右六二

文明五年十二月日ノ御文ニ今月四日ニマタ福田ノ  
 乘念モ往生スカノ道林寺モ同日ニアヒアタリテ往  
 生セシコトマコトニ信心ノトヲリモ一味セルイハ  
 レトオモヒハシヘルナリ等ノ御文言ニヨレハ今同  
 シキ八日ノ御文ニ乘念ノ往生セルヲ指アテ、コレ  
 ホトニハヤ目ニミエテトノ給フヤウニ見ユ○アタ  
 ナル人間界ノ老少不定ノサカヒトシリナカラトハ  
 アタナルトハ化ノ字アタト訓ス化野ノ露ト云化ノ  
 字ノ如シ小補韻會二十三ノ右曰自有而無自無而有則為化文又  
 人死ヲ化ト云莊子五ノ右曰其死也物化コレ空ク實ナキヲ  
 アタナルト云散ル華ヲアタ花ト云同シ意也又佗ノ



字ヲアタトヨム君ヲキテアタシ心ヲワカモタハ  
 トヨメルカ如シ古今二十モ他へ心ヲ通ハシマコトナキ  
 ヲアタシ心ト云也○サカヒトハ界ノ字ノ訓ナリ界  
 ハ區別ノ義ニシテサカヒト訓ス○三途ハ難ニシツ  
 マン事等 三途トハ第一帖ノ十一通目ノ如シ○ハ  
 難トハ亦ハ不閑ト云新ニハハ無暇ト云一者地獄二  
 者畜生三者餓鬼四者墮皆瘖瘂五者世智辨聰六者佛  
 前佛後七者鬱單越國八者長壽天コノ八種ヨク聖道  
 ヲ礙十五左フ故ニ名テ難トス具ニハ無暇有暇經及大乘義  
 章八末十五左ハ難義ノ如シコノ八種聖道ヲ礙テ聖行ヲ修  
 スル事ナシ故ニ三途ハ難ニシツムト云也○アサマ

シトイフモヲロカナリ ヲロカトハ疎ノ字ノ訓也  
 源氏ニ多クアル詞ナリアサマシトイフモナソノ  
 實ヲツクサス故ニヲロカナリトノ給フ○諸神諸佛  
 ニ追從四六右三十九左 廿六右 六左マウス心ヲモミナウチステ、 追從トハ源  
 氏ノ四六右三十九左 廿六右 六左幕木須磨蓬生乙女等ノ卷ニ多ク出テ、ツイセ  
 ウトモツ空釋三右 閑屋六左イソウトモ書ケリ儒書ニ佛ヲ信スルヲ詢  
 テ赤考所出佞佛ト云コレ佛ニ媚諂フヲ評ス何サマ愚人ノ妄  
 執ヨリ佛神ニ仕ユルハ多クハ信ヲモテツカフルニ  
 非ス我身ノ災害ヲ免ンタメマタハ現世ノ壽福ヲ祈  
 テコトサラニ心ヲ染メテ殊勝ニシ身ニ哀ナル姿ヲ  
 ツクリ口ニクトキ立テ、佛神ニ祈ルハ佞人ノ君ニ



追従スルト異ナル事ナシ面ヲ柔カニスルハ身ノ諂  
ナリ言ヲ巧ニスルハ口ノ諂ナリ方便計校スルハ意  
ノ諂ナリ向フノ心ヲ追テ從フヲ追従ト云コノ心ヲ  
ミナウチスツルハ雜修ヲ離ル、也○サテ彌陀如來  
ト申ハ至如來ニ歸入スル心ヲモツヘシ 文ノ中ニ  
信機信法ノ二種ノ信心ヲ頭ハス見ツヘシ○オモヒ  
ツメテ ツメテハ詰ノ字也詰ハ猶窮治也○サテコ  
ノ信スル心モ念スル心モ等 信スル心トハ即信心  
也念スル心トハ念佛ナリ又一念發起ノ信ト憶念相  
續也○正定聚ニ住ストモ滅度ニイタルトモ等 經  
ニハ必至滅度ト説ク滅度ニ至ルヘキ身ト云意ニシ

テ不退ノ位ト云ト同シ御一代闡書曰一念歸命ノ時  
不退ノ位ニ住スコレ不退ノ密益ナリコレ涅槃分ナ  
ル由仰ラレ候 文此土ニ於テ大涅槃ヲ證スト云ニハ  
非ス○等正覺ニイタル 如來會上十右成等正覺ト説ク  
正定聚等正覺ハヒトツ意ヒトツ位也○彌勒ニヒト  
レトモ申ナリ 龍舒ハ一念往生便同彌勒ト云彌勒  
ハ豎ノ金剛心ノ菩薩ナリ念佛行者ハ横超ノ金剛心  
ヲ極ム故ニ彌勒ニヒトレト申也○奥書 心中ニフ  
カク 心ノ字古代ノ本ニ身ノ字ニ作ル故ニ先輩寫  
誤ナルヘシトイヘリ○ソノフルマヒヲミセスレ舉  
動ノ字フルマヒト訓ス○一切ノ諸神ナントヲモワ



カ信セヌマテナリ等 御傳ニモ穴賢々々神威ヲカ  
 ロシムルニアラス努カ々々冥眈ヲメクラシタマフ  
 ヘカラストノ給フ聊カ神威ヲ蔑如シ信セサレトニ  
 ハ非ス一切諸神ニ於テ信憑求念シツカヘサレトナ  
 リヲロカニトハ疎ノ字也○タ、フカクコ、ロヲハ  
 佛法ニト、ムヘキナリ 孝經曰王曰願道人留意  
 文家語五儀曰又少留意於五儀之事則於政治何有失  
 矣○所送寒暑五十八歳 御文主ノ御年齢ヲツフサ  
 ニ記シテ殘シ給フソノ遺志タカハス今ノ世マテニ  
 報恩講スキテ翌朝コノ一通ヲ拜讀スル永式トナレ  
 リタ、シ違如上人ハ應永廿二年乙未三月廿五日降

生シ今文明五年癸巳十二月八日ノ御文ナレハ御年  
 五十九歳ナリ故ニ下ノ文明六年ノ御文ニ滿六十ト  
 記シ給フ自ラ忽忽シテ記シ給フカ後人錯テ九ノ字  
 ヲハニ作ルカ知ヘカラス○ノチノ代ノシルシノ夕  
 メノ歌シルシトハ證據證驗ナリ○カタミトモナレ  
 トハ形見ノ言ハ源氏ノ桐壺十五卷卷ナトニモ出タル言  
 也カタミトコソ今ハアタナレコレナクハ念ル、時モ  
 アラマシ物伊勢トヨメル是也二八遺跡講式ニ世間戀人之習尚重其形見遊仙窟記念ヲ  
 遺跡講式ニ世間戀人之習尚重其形見遊仙窟記念ヲ  
 カタミトヨム長恨歌ニハ信ノ字ナリトイヘリ人ヲ  
 慕テソノ形ヲ見ルカ如クナレハ形見トモ書キ忘レ



又シルシナレハ記念ト書キ信ノ字ヲモ用ルナリ

### 第二通

抑開山聖人ノ御一流ニハ等 関山ト稱スルコト古  
キ傳ニアルヘキ事ニシテ考得ルコトナシ續誓古略  
取意一左曰真覺國師諱文才號仲華人稱曰松堂和尚盡得  
賢首宗旨ソノ傳同上曰成宗建大萬聖祐國寺於五臺詔求  
開山第一代住持帝師迦羅斯巴薦之成宗卽鑄金印署  
師為真覺國師文成宗ハ元ノ第六主吾邦伏見院ノ御  
宇ニ當ル文明五年癸巳ニ先タツコト百八十七年也  
○出立 源氏行幸卷ニ出タナイソキラナンオモヒ  
モヨホサレ侍ルニトイヘリ○コノ信心ヲ獲得セス

ハ到无間地獄ニ墮在スヘキモノナリ 三惡火坑臨  
々欲入ノ惡機ナレハ此信心ヲ獲得セスハ三惡趣ニ  
墮在スヘシトイハ、穩ナルヘシ无間地獄ニ墮在ス  
ヘキモノナリトノ給フハアマリ嚴シキ御誠ニアラ  
スヤ謂ク重苦ノ無間ヲアケテ輕ヲ攝シ人ヲシテ警  
覺セシム止觀七之二經曰經云剎那起惡殃墜無間促  
々時節尚成重業何況長夜惡念文轉行殃者咎也罪也  
ト註ス何レノ經文ト指スコトナシ縱令善機タルモ  
佛願ニ託スル時ハ必墮阿鼻ノ罪人ト等シ思ツヘシ  
○自餘ノ諸善萬行ニコ、口ヲカケス乃至乃ヒカオモヒ  
ヲモナケステ、此文ニ初二雜行次ニ雜修後ニ自



カラ捨ルコトヲ示ス故ニ又ノ字ヲ置テ明白ニ顯シ  
 給フ○カヤウニコ、口エタル人ヲコソ玅正義トハ  
 イフヘキモノナリ 初ニ必監無間ト機ヲ信シ次ニ  
 彌陀一佛ヲフカクタノミ奉リテ法ヲ信シ二種ノ深  
 信具足スコレ當流ノ正義也又雜行雜修自力ノヒ力  
 才モヒラステ、一心一向ニ信樂スルハマコトニ當  
 流ノ正義ナリ○コノホカニナラ信心トイフコトノ  
 アリトイフ入コレアラハ等 コノ炳誠明ナルコト  
 日月ヲ掲ケテ行クカ如シイカナル白癩ノ者モ惑フ  
 ヘキ道ナシ然ニ或云十劫正覺ノ理リヲ知ルヲ信ト  
 云ト云或云夕ノマ子トモ領解閑クレハ信ナリ夕ノ

ムハ還テ自心ニ拘泥シテアシ、ト云或云憶念トア  
 レハ運心マコトシク領解フカキコソマコトノ信心  
 ナレタ、不思議ト信セヨ一念發起ノ信心ノ又聞ウ  
 ルトキ往生決定スノト云ハ一往ノ勸門ナリト云或  
 云夕ノムコソ信ナレ名號ノ謂レヲ心ウルハ智慧才  
 學ニシテ本願ノ因ニ非スト云或云機法一體ノ道理  
 ヲヨク心エ分タルヲ信心ト云コレ再往眞實ノ極意  
 ナリ和讚御文等ニ示レ給フハ一往方便ノ教ナリト  
云嗚呼コレヲノ誑言今蓮如上人ノスヘテ承引スヘ  
 カラサルモノナリトノ給フ極誠ニアタレリ地蔵十  
 輪二右經序ニ鐵石一違有死生之巨痛纖毫錯學有昇墜之



異塗トイヘリ渡ク恐懼セサルヘケンヤ○承引ノ字  
 源氏桐壺<sup>二十右</sup>ノ卷ニウケヒクト云ヲ音ニ讀テ承引ト云  
 ○奥書コレマコトニ彌陀一佛ノ功德ノウチニ等諸  
 神本懷集<sup>未廿三右</sup>曰彌陀ヲ念シタテマツレハオノツカラ十  
 方三世ノ諸佛菩薩乃至一切ノ神祇冥道日月星辰ヲ  
 念スルコトハリアリ又<sup>廿六右</sup>曰本地ノ佛菩薩ハコトクク  
 彌陀一佛ノ智慧ナレハ彌陀ノ名號ヲ稱スルニ十方  
 三世ノ諸佛オノツカラ念セラレタマフ諸佛菩薩念  
 セラル、イハレアレハリノ垂迹タル諸神ミナマタ  
 信セラル、コトソノ理必然ナリ文今ノ御言コノ本  
 懷集ノ意也○サレハ聖人ノイハク等改邪鈔<sup>本九右</sup>曰夕ト

ヒ牛盜人トハイハルトモモシハ善人モシハ後世者  
 モシハ佛法者トミユルヤウニ振舞ヘカラストヲホ  
 セアリ文○牛盜人ト云コトハ下ノ第十三通ニテ解  
 スヘシ○後世者ト云ハ道心ノ風情アリテ後世菩提  
 ニ志シ世ヲ世トモ思ハ又類ナリ○善人ト云ハ一筋  
 ニ作善功德ニ志シ財ヲ散シ寶ヲ施ス類ナリ○佛法  
 者ト云ハ佛法ノ本意ヲシリ學智アル風情ノ類ナリ

第三通

夫當流開山聖人ノヒロメタマフトコロノ等 此御  
 文世俗唱テ神明三ノ條ト稱ス○コノ三ノ條ノ篇目  
 寸ハ箇ノ字ノ略也條ハ枝條木ノエタ小エタノ分



ル、カ如ク三箇ノ條目混雜セスユヘニ三ヶ條ト云  
 ○篇目トハ釋氏要覽<sup>上三五</sup>ノ目錄ニモ篇目ト記シ改邪鈔<sup>本十七左</sup>  
 ニモ數箇條ノ篇目ヲ夕テ、ノ語アリ○コレヲモテ  
 本トセサラン人々等 ソノコロ平泉寺豊原寺等ノ  
 衆徒大ニ今師化導ノ繁昌ヲ子タム故ニ荒涼ナル御  
 門徒イヨク憤テ誹詢スルコト甚シ故ニ三ヶ條ノ嚴  
 制ヲ加テ當山へ出入ヲ停止スヘキモノナリトノ給  
 フ也○ソモクサンヌル文明第三ノ曆仲夏ノ比ヨリ  
 花洛ヲイテ、等 第一帖ノ八通目ニハ文明第三初  
 夏上旬ノコロヨリ大津三井寺ノ南別處邊ヨリ北國  
 二趣<sup>上右</sup>キ給フトノ給フ遺德記ニモコレニ同シ然ニ今

ノ御文ニハ文明第三ノ曆仲夏ノ比華洛ヲイテ、ト  
 ノ給フコレ初夏ト仲夏ト相違シ又第一帖ニハ南別  
 處邊ヨリシノヒ出テ、トイヒ今ハ華洛ヲイテ、ト  
 アリテ近松ヲ出給フト華洛ヲ出給フト相違ス又帖  
 外<sup>テ終</sup>ノ文明六年九月日吉寺御坊焼失ノ御文ニハ文明  
 第三ノ天五月仲旬ノコロ江州志賀ノコホリ大津三  
 井寺ノフモト南別所チカマツヲ風度オモヒ夕チテ  
 トノ給フコレニヨレハ五月中旬近松ヲ発シ給フト  
 見ユ雪窓老人ハ今ノ文ノ言便夕、意ヲ先トシテ言  
 ヲ次第シ給ハス縱容ナル文格ナリ華洛ヲ出給フ時  
 ヲ仲夏ノ比トノ給フニハ非ス吉崎ノ地ヲ見立テ、



草創ノ始カ仲夏ノ比ナリ七月廿三日ニハ土木ノ功  
 アラク成就セシ趣ヲ述給フ華洛ヲイテ、トイヘル  
 詞仲夏ノ比ト云句ニカ、ルニ非ス實ニハ文明第三  
 ノ曆奉洛ヲイテ、仲夏ノ比ヨリ同シキ年七月下旬  
 ノ候ステニコノ當山ノ風波アラキ在所ニ草菴ヲシ  
 メテトアルヘキナリト云今謂コノ雪窓ノ説モ信從  
 シカタシ先輩空老人ノ歡喜鈔ニ今ノ一通ニ至テ婆  
 心切ニ試ニ多義ヲ述セラルレトモ第一帖第二帖及  
 ヒ帖外ノ御文ヲ案スルニ第一帖ノ八通目ニ載ル空  
 老人ノ説ヲ穩當トスヘシ文明三年初夏上旬ノ比近  
 松ノ御坊ヲ出タマヒ京都江州ヲ恐テ廻リ給ヒ五月

中旬花洛ヲイテ、北國ニ趣キ給フナルヘシ故ニ今  
 仲夏ノ比華洛ヲイテ、ノ御言アリ華洛ヨリ立出給  
 フニモ近松ハ御真影ノオハシマス本所ナレハ理ト  
 シテ近松ノ本所ニ立歸テソレヨリ北國ニ趣カセ給  
 フヘシヨリテ帖外ノテ初御文ニハ文明第三ノ天五月中  
 旬ノ比江州志賀ノコホリ大津三井寺ノフモト南別  
 處チカマツヲ風度オモヒタチテトノ給フト見ユ五  
 月中旬ノ比北地ニ趣キ越前加賀ヲ經廻シタマヒ吉  
 崎ニ落著セ給フハ六月ト見ユサレハコソ帖外ノ御  
 文ニ去ヌル文明第三ノ曆林鐘上旬比ヨリ當年マテ  
 ハステニ三ヶ年ノアヒタコノ當山ニ居住セシムル



コ、ロガシハヒトヘニ往生極樂ノ夕メニシテサラ  
ニ名聞利養ヲノソマスマ夕榮華榮耀ヲコト、セス  
トノ給ヘリ雪窓老人ハ仲夏ノ比ヨリ七月下旬ノ候  
マテニ吉崎御建立成就シ給フ様ニ書レタレトモ遺  
徳記ニアルトキ所々巡見ノ砌越前ノ國坂北郡吉崎  
ト云處ニ居ヲシメハヤト思召テ既ニ同キ初秋下旬  
第七日ヨリ始テ一關ヲ建立シタマヘリトアレハ文  
明三年七月廿七日ヨリ始テ吉崎御建立ナリト見エ  
タリ是ヲノ意ヲモテ案視スヘシ○花洛トハ華ハ洛  
陽ノ文華人物ノ華ヤカナルヲ称美シテ華洛ト云洛  
ハ洛陽後漢洛水ノ陽ニ都城ヲ立ツヨリテ洛陽ヲ王

都ノ名トスル也候トハ氣候ノ義ニシテ一年ヲ二十  
四候ト分ツ故ニ時候ト云化身御自筆十七左土卷ニ仲春上旬之候  
ト云ト同シ○草菴ヲシメテシメテハトホクノ字宅地  
ヲトフテ所棲トスルヲト居ト云吾邦ニハスヘテ所  
居ヲ定ルヲシムルトイヒ習ハセリ○一味ノ安心ト  
ハ差別ナキヲ一味ト云機類ハ各別ナレ氏信心ハ一  
味平等ナルコト淄澠ノ水海ニ入テ一味ナルカ如シ  
御傳ノ信心同異諍論ノ如シ○今日今時マテ堪忍セ  
シムルトコロナリ北本涅槃十四註我於今者實能  
堪忍剝皮為紙刺血為墨以髓為水折骨為筆書寫如是  
大涅槃經書已讀誦令其通利然後為人廣說其義文今



ハ風波アラキ在所コトニ他宗ノ嫉妬偏執ノ難ヲダ  
 エ悉ヒ給フヲ堪忍セシムル所也トノ給フ○信用ト  
 ハ晏子春秋一献上諫曰景公信用讒佞文大經曰信用  
 者少○一神明ト申ハソレ佛法ニヨイテ等 上ニ篇  
 目ヲ列ルニハ三ヶ條トシ今ソノ義ヲ述ル時ハコレ  
 ヲ四段トシコトニ篇目ノ次第ト前後混亂スルハ何  
 ノ所以カアルヤ謂三ヶ條ノ標章ハソノ部類ニ從テ  
 第二章ニ諸神諸佛菩薩ヲカロシムヘカラスト標シ  
 給フ然ニ越前ノ國ノ御門徒動モスレハ神明ヲ輕蔑  
 シテ他宗ノ誦難ヲ招クコト甚シ故ニマツ第二ヶ條  
 ニ列ル神明ヲ輕ニスヘカラサルコトヲ第一ニ擧テ

正義ヲ示シ次ニ第一第二第三條ト三ヶ條ノ篇目ノ  
 通りニ次第シテ示シ給フ是マツソノ慮フル所ノ急  
 ナルヲ示シテ更ニ文段ノ前後次序ニ拘リ給ハス御  
 勸誘ノ巧便也○神明トイフハ化身土卷會李年六左末ニ善導ノ  
 釋ヲ引テ曰承事神明得此報今諸神ヲ總シテ神明ト  
 云世ニ伊勢ノ内外ノ兩宮ヲ特ニ神明ト稱スル事ハ  
 コレ神祇ノ根本ナルユヘニ總テモテ別ニ名ルナリ  
 今指ス所ハ權社ノ諸神ヲ神明ト云不測ヲ神トイヒ  
 靈明鏡ノ如ナルヲ明ト云也○カリニ神トアラハレ  
 テ等 佛教ノ中ニモ本トハ深位ノ薩埵ナレトモ願  
 カノ故ニ鬼神トナル金剛神經積初下曠野鬼神等二十七八左經集ノ



如シ吾邦ノ諸神ノ事神名帳ニ載ルカ如シ兩部ノ神  
 道ニソノ本地ヲ傳フ故ニカリニ神トアラハレテト  
 云具ニハ神社考及諸神本懷集ノ如シカノ本懷集本三右  
 第一ニハ權社ノ靈神ヲアカシテ本地ノ利生ヲタフ  
 トムヘキコトヲオシヘ第二ニハ實社ノ邪神ヲアカ  
 シテ承事ノオモヒヲヤムヘキム子ヲス、メ第三ニ  
 ハ諸神ノ本懷ヲアカシテ佛法ヲ行シ念佛ヲ修スヘ  
 キオモムキヲシラシム又六要鈔六末初ニ詳ニ明スカ  
 如シ〇イサ、カナル緣ヲモテ等 現世ノ祈願怖望  
 ハ後世菩提ノ大事ニ對スレハ皆聊少ナリ祇園ノ社  
 ニ現益ヲ祈テ和歌ノ靈告ヨリ遂ニ出家シ撰集加茂

ノ社ニ官途ヲ歎キテ佛光ノ靈瑞ヨリ發心セシ發心  
 如キコレ少緣ヨリ終ニ佛法ニ勤メ入レ給フ也〇三注  
 カレハイマノトキノ衆生ニライテ等 コレ諸神本  
 懷集本三右ノ第三段ノ意也諸神何レモ和光同塵シマシマ  
 セトモ諸神ノ本懷ハ出離生死ノ一大事ニアリ故ニ  
 三井寺ノ回祿ヲ憂ヘスカヘリテ菩提心ヲ發スヲ喜  
 悅ノ色ヲアラハシ山王權現ハ桓肆ニ福分ヲ與ルヲ  
 拒ム鈔石十五右カ如シマシテ淨土ノ大菩提心ヲ獲テ念佛  
 スル者諸神ナレカハ守護セラルヘキヤ〇彌陀一佛  
 ヲタムウチニコモレルカユヘニ等 次上第二通  
 ニ諸神本懷集ノ文ヲ引テ證スルカ如シ深ク本地ヲ



アカムル者ハカナラス垂迹ニ歸スル理リアリ本ヨ  
 リ垂ル、迹ナルカ故ナリ偏ニ垂迹ヲタフトムモノ  
 ハ未タ必シモ本地ニ歸スルイヒナシ迹ヨリ本ヲ垂  
 レサルカ故ナリ○一當流ノナカニヲイテ諸法諸宗  
 ヲ誹謗スルコト等 曰下ノ三ヶ條ハ初ノ篇目ノ次  
 第ナリ諸法諸宗ヲ誹謗スヘカラサル事第一帖ノ十  
 四通目ニ述スルカ如シ○一諸佛菩薩ト申ハソレ彌  
 陀如来ノ分身ナレハ等 口傳鈔下卷ニ久遠實成ノ  
 彌陀ヲモテ報身如来ノ本體トサタメテコレヨリ應  
 迹ヲタル、諸佛通總ノ三身ハミナ彌陀ノ化用タル  
 事ヲシルヘキ事ヲ釋シテ本師本佛ノ義ヲ立レトモ

本師本佛ノ名言ナシ諸神本懷集曰般舟經ニハ三世  
 ノ諸佛ミナ念彌陀三昧ニヨリテ正覺ヲナルトキ  
 タルハ彌陀ハ諸佛ノ本師ナリトミエタリ文 又曰楞  
 伽經ニハ十方ノ國土ノアラユル諸佛菩薩ハミナ無  
 量壽ノ極樂界ヨリイテタリトケリコレハ諸佛ミ  
 ナ彌陀ノ分身ナリトキコエタリシカレハ本師ノ彌  
 陀ニ歸センヒト分身ノ諸佛ニ歸スルコトハリイハ  
 サルニ顯然ナリ文爾レハ般舟經ニヨリテ本師ト稱  
 シ楞伽經ニ依テ本佛ノ名言ヲ立ルコト存覺上人ニ  
 首創スト見ユ雪窓老人謂ク淨土ノ教ハ攝化超勝ヲ  
 本トス故ニ彌陀ヲ王トシ諸佛ヲ臣トス密乘ハ本有



不生ノ根本ヲ要トス故ニ大日法身ヲ本トシ諸佛ヲ  
 未トス華嚴ハ重々無盡圓滿ヲ宗トス故ニ遮那ノ大  
 相ヲ主トシ諸佛ヲ伴トス入法界品今十ノ四左ニ或有見佛無量  
 壽觀自在等所圍繞ト説クト云〇一開山親鸞聖人ノ  
 ス、メマシマストコロノ等コレ第三ノ條也〇サ  
 レハ先達ヨリウケタマハリツタヘシカコトク至乃佛  
 恩報盡ノ多念ノ稱名トナラフトコロナリコレ口  
 傳鈔ノ語ヲ沿襲シ給フイクタヒモノ五文字他カヨ  
 リ幾度モ授ケラル、様ニ聞ユレ左ニハ非ス先達  
 ヨリイクタヒモ承リ傳ヘ幾度モナラフトコロナリ  
 ト也カノ口傳鈔下二十左曰サレハイクタヒモ先達ヨリウケ

タマハリツタヘシカコトクニ他カノ信ヲハ一念ニ  
 即得往生トトリサタメテソノトキイノチヲハラサ  
 ラン機ハイノチアラシホトハ念佛スヘシコレスナ  
 ハ千上盡一形ノ釋ニカナヘリ乃至無常ノ根機ヲ本ト  
 スルユヘニ一念ヲモテ往生治定ノ時尅トサタメテ  
 イノチノフレハ自然ト多念ニヲヨフ道理ヲアカセ  
 リサレハ平生ノトキ一念往生治定ノウヘノ佛恩報  
 謝ノ多念ノ稱名トナラフトコロ文證道理顯然ナリ  
 此鈔文ヲモテイクタヒモノ語ヲ心ウヘシコレ先輩  
 慧空及雪窓老人ノ解並ニ同シ〇先達トハ韓非子ハ  
 六説林日管仲鮑叔相謂日君亂甚矣必失國齊國之諸



公子其可輔者非公子糾則小白也與子人事一人焉先  
 達者相收管仲乃從公子糾鮑叔從小白國人果弑君小  
 白先入為君魯人拘管仲而效之鮑叔言而相之文唐高  
 僧傳并二五本濟傳曰包括先進啓則後賢文先達ハ先  
 進先覺ト云カ如レ今先達ト云ハ祖師ノ教ヲ傳持シ  
 給フ如信上人ヲ指ト見ユ今ノ文ニ一念ヲモテハ住  
 生治定ノ時尅トサタメテソノトキノ命ノフレハ自  
 然ト多念ニヲヨフ道理ナリトノ給フ此一念多念ノ  
 言ハコレ稱名ノ一念ナリソノ證ハ口傳鈔ノ上ノ文  
 二上盡一形下至一念ノ文ヲ釋シテ下至一念ハ本願  
 ヲタモツ往生決定ノ時刻ナリ上盡一形ハ往生即得

ノウヘノ佛恩報謝ノツトメナリトノ給フ元祖ハ信  
 ヲハ一念ニ生ルト取テトノ給ヒ吾祖未登鈔廿六左ハ本願ノ名号  
 ヲ一聲トナヘテ往生スト申コトヲキ、テヒトコエ  
 ヲモトナヘモレハ十念ヲモセンハ行ナリコノ御チ  
 カヒヲキ、テウタカフコ、口ノスコシモナキヲ信  
 ノ一念トマフスナリトノ給フコノ本願ノ名号ヲ持  
 ツ往生決定ノ時尅ヲ下至一念ト釋ス一念モ多念モ  
 共ニ行ノ一念多念タルコト思ツヘシ〇シカレハ祖  
 師聖人御相傳一流ノ肝要ハ至他人ニ對シテアラハ  
 スヘカラス 此御文言改邪鈔ニヨリ給フカノ鈔未五左ニ  
 凡夫往生ノ得否ハ乃至一念發起ノ時分ナル事ヲ釋



之竟テ曰シカレハ祖師聖人神相兼私通ノ一流ノ肝  
 要コレニアリコ、ヲシラサルヲモテ他門トシコレ  
 ヲシレルヲモテ御門第ノシルシトスソノホカカサ  
 ラスシモ外相ニオイテ一向專修行者ノシルシヲア  
 ラハスヘキユヘナシ文 今文言稍異ナルノニ彼鈔ニ  
 御門第ノシルシトストイヒ今ハ真宗ノシルシトス  
 トノ給フ○シルシトハ驗ノ字證驗トツ、キテ外ヘ  
 頭ル、レル也又印ノ字ノシルシアリテ紛ル、所  
 ナキ也大集念佛三昧經十六念佛三昧十五ノ讚ノ中  
 曰念佛三昧一切諸佛之印璽也文諸佛ノ佛位ニ即夕  
 マフ印璽ハ念佛三昧也吾邦三種ノ神器ノ中ノ神璽

七帝王受禪ノ大寶也吾真宗念佛行者ノ印璽ハ唯コ  
 ノ信心一二限レリ○正本 那ニ對シ傍ニ對シテ真  
 正ヲ正本ト云本トハ末ニ對ス信心ヲモテ本トセラ  
 ルアニ正本ニ非ヤ○如件 件ハ名件條件足又ヲ夕  
 ン又ト讀カ如ク夕タリノ如シト云コト也上ニ子細  
 ヲ書ケルヲ結スル所ニ如件トアレハ先ニ書タルク  
 タリノ如ク存知セヨト也三ノ三十八左蓋囊鈔ニ裔然上人入唐記  
 ニハ又件施主施入身衣裳一件ト書レタルヲ引タリ

第四通

夫彌陀如来ノ超世ノ本願ト申ハ等○サレハ五道六  
 道トイヘル惡趣乃至惡趣自然開トトカレタリ 五道



六道ト云ハ開合ノ異也大論三十<sup>十五</sup>前二阿修羅八五  
道二攝セサルコトヲ述テ六趣ト説フ正トスル文曰  
問曰經說有五道云何言六道答曰佛去久遠經法流傳  
五百年後多有別異部々不同或言五道或言六道若說  
五者於佛經迴文說五若說六者於佛經迴文說六又摩  
訶衍中法華經說有六趣衆生觀諸義意應有六道復次  
分別善惡故有六道善有上中下故有三善道天人阿修  
羅惡有上中下故地獄畜生餓鬼道若不爾者惡有三果  
報而善有二果是事相違若有六道於義無違文大乘義  
章八末右六道義曰或分為五謂三惡道諸天及人以何  
義故不說修羅依法念經修羅有二一鬼二畜良以鬼畜

兩趣攝故更不別論依伽陀經修羅有三一畜二鬼三者  
是天以鬼畜天三趣攝故不別論之或分為六如上所說  
修羅雖復鬼畜等攝種類衆多故分別之隨形異論差別  
無量開合如是文法華玄贊三十一左第二是二同シ安樂二十二右  
ニ淨影大經ノ疏ヲ兼テ曰若得往生彌陀淨國娑婆五  
道一時頓捨故名橫截五惡趣者截其果也惡趣自然閉  
者問其因也此明所離文尊号銘文具ニ此二句ヲ釋シ  
給フ意ヲモテ案スルニ橫截ヲ釋シテ截五左トイフハキ  
ルトイフ五惡趣ノキツナヲヨコサマニキルナリト  
イヒ又惡趣自然閉トイフハ願力ニ歸命スレハ五道  
生死ヲトツルユヘニ自然閉トイフナリト釋シ給フ



ニヨレハ横截五惡趣ノ句ハ其因ヲ截ル惡趣自然閉  
ノ句御自叙三十一卷左ハ果ヲ閉ルコトヲ説クト釋シ給フニ似タ  
リ信未御自叙三十一卷左未日言斷者發起往相一心故無生而當受生無  
趣而受應到趣已六趣四生因亡果滅故即頃斷絕三有  
生死故曰斷也是ラノ意ヲモテ見ツヘレ○故ニ如來  
ノ誓願ヲ信シテ一念ノ疑心ナキトキハ本註乃極樂ニマ  
イルヘキ身ナルカユヘナリ 尊号銘文本註曰ヨコサマ  
トイフハ如來ノ願カラ信スルユヘニ行者ノハカラ  
ヒニアラス五惡趣ヲ自然ニ夕チステ四生ヲハナル  
、ヲ横トイフ誰カ地獄へ落ント願フ者アルヘカラ  
ス攝取不捨ノ義ヲツヨク示サンカ為ニ縱令ノ言ヲ

設テタトヒ地獄ニオチント思フトモワカハカラヒ  
ニテ地獄へモオチスレテ極樂ニマイルヘキ身ナリ  
トノ給フナリ淨土門ノ中ニモ他家ニハ攝取シテ後  
ニ捨不捨ヲ論ス吾祖ノ一家ハ攝取スレハ永不捨正  
定聚ノ義ヲ存ス又地獄ニ墮センコトハ願ハ子凡ソ  
ノ地獄ノ因タル惡業ヲ好ムハ地獄へ墮ンコトヲ願  
フ道理ナリ譬へハ飛蛾ノ火ヲ愛シテ好テ死スルカ  
如シ○雨山ニカウフリタル 雨山ト云ハ雨滴ノ多  
キ大山ノ高キヲ云吾邦俗ノ語ナリ又天山トモ書テ  
高大ナルヲ云○夕、口ニ御自叙五卷ツ子ニ赫名ヲトナヘテ  
コレ重言ニ似タリ然ニ行卷御自叙五卷曰稱名則是最勝真妙正



業正業則是念佛念佛則是南无阿彌陀佛コレ稱名モ  
 念佛モ南无阿彌陀佛ナレハ重言ニ非ス又源氏ノ柏  
 木御法ノ卷<sup>十三左</sup>ナトニ夜ヒト夜ト書キ真木柱ノ卷<sup>十右</sup>ニ日  
 一日イリ井テト書キ若菜ノ卷<sup>二十左</sup>ニソレ夕ニイト不定  
 ナル世ノサ夕メナリヤトノ給テト書キ細流ニヨレ  
 ル本ニハ不定ナル世ノサ夕メナサヤト作ルト見エ  
 テ細流ニ不定ノサ夕メナサト書タル重詞ニアラス  
 假名ノ物ハカヤウニ書ルコトツ子ノ事ナリト註シ  
 又同卷<sup>未考</sup>ニイトマノヒマト書キ竹川ノ卷<sup>三右</sup>ソノ昔ノ  
 御スクセナト書ルヲ見レハ假名ノモノハカヤウニ  
 書モノト見ユ第一帖ノ六通目ニモ重言ノ例ヲ出ス

カ如シ○奥書 文明六二月十五日夜大聖世尊入滅  
 ノ昔ヲオモヒイテ、等 世尊入涅槃日ノ夜聖道ノ  
 諸教ハ在世正法ノ時機ヲ度シテ像末法滅時機ニ被  
 ラス末代今時ノ衆生出離生死ノ要路ハ夕、彌陀如  
 来ノ超世ノ本願ナルコトヲ示シ給フ故ニコノ奥書  
 アリ應永二十二年乙未御誕生ナレハ文明六年甲午  
 ハ御歳六十年曆違フコトナシ

第五通

抑此三四年ノアヒ夕ニヲイテ等 文明三年夏ノ比  
 ヨリ今文明六年甲午二月十六日ノ御文ニシテ二月  
 ハマタソノ年ノ初ナレハ三四年ノアヒ夕ト書セ給



フ此一通世人數珠ノ御文トイヒ習セリ○ソノユヘ  
ハ珠數ノ一連ヲモモツヒトナシサルホトニ佛ヲハ  
手ツカミニコソセラレタリ 此一通ノ趣ヲ考ルニ  
坊主分ヘノ御勸化ト拜視セラル、也今ノ文ニ上ヲ  
承テソノユヘハ等トノ給ヒ下ノ文ニハ眞實信心ヲ  
獲得シタル人ハカナラス口ニモイタシ又色ニモソ  
ノスカタハミユルナリトノ給フニヨレハ眞實ノ信  
心ヲウレハツ、メトモオノツカラ口ニ出シ又色ニ  
モ見ユルモノナルニ珠數ノ一連ヲモ持ツ入ナク佛  
ヲハ手ツカミノ風情ニテ恭敬ノ心ナキヲ誠シメ給  
フ御文言ナリ珠數ハ自然ノ法器ニシテ敬スルコト

佛ノ如クスヘシ珠數ノコトヲ諸部ノ中ニ數珠ト説  
ク今珠數ノ一連トイヒ和語燈ニモ珠數トアルハ後  
世筆寫ノ者文字ヲ倒置スルナルヘシ一連トハ木摠  
子經ニハ以為千具トモ皆與一具トモ説ク今ハ繩線  
ヲモテ貫穿スレハ俗語ヲモテ一連ト云ナリ釋氏要  
覽中右十曰牟黎曼陀羅咒經曰梵語鉢塞莫梁云數珠此  
乃是引接下根牽課修業之具也木摠子經失譯ノ説ニヨ  
ルニ佛世ニ波瑠璃王世尊ニ白ス我國邊小ニシテ頻  
年寇賊相侵シ五穀勇貴シ疫疾流行ス我恒ニ安臥ス  
ルコトヲ得ス我憂務アリテ疲廣ノ法ヲ持チ難シ特  
ニ矜哀シテ要法ヲ示シ給ヘト佛ノ言ク煩惱障報障



ヲ滅セルト欲セハ木槌子一百八ヲ糸ヲモテ貫キ常  
 二自ラ隨ヘ行住坐卧ニ南无佛陀南无達磨南无僧伽  
 ノ名ヲ唱テ一木槌子ヲ過シ若ハ十二十百千及至百  
 千萬ナランヨク如是シテ二十萬遍ニ滿レハ第三焰  
 天ニ生ス一百万遍ニ滿レハ百八ノ結業ヲ斷除スル  
 コトヲ得テ始テ生死流ニ背キ泥洹ニ趣向スト使還  
 テ王ニ告クコレヨリ吏民ニ勅シテ木槌子ヲ營辨シ  
 千具ヲ造レリトイヘリ不空ノ譯スル金剛頂瑜伽念  
 珠經一古曰金剛薩埵菩薩而說偈曰珠表菩薩之勝果於中  
 間滿為斷漏繩線貫串表觀音母珠以表無量壽慎莫驚  
 過越法罪皆由念珠積功德又曰念珠初左分別有四種上品

最勝及中下一千八十以為上一百八珠為最勝五十四  
 珠以為中二十七珠為下類二右又曰由安頂髻淨無間由帶  
 頸上淨四重手持臂上除衆罪能令行人速清淨コノ經  
 及略出念誦經四ノ六右二五部ノ念誦ヲ說テ曰四種數珠者如  
 來部用菩提子金剛部用金剛子寶部用寶珠蓮華部用  
 蓮子羯摩部用雜寶間錯為之又校量數珠功德經兩譯  
 アリ一ハ唐ノ寶思惟譯一ハ唐ノ義淨ノ譯ナリソノ  
 淨三藏ノ譯スル曼珠室利咒藏中校量數珠功德經ニ  
 ハ文殊諸ノ陀羅尼及佛名ヲ誦念スル者ノ為ニ鐵赤  
 銅真珠珊瑚等寶木槌子蓮子因陀羅佉又烏嚧陀羅佉  
 又水精菩提子ノ九種ノ數珠ノ功德ヲ校量シテ菩提



子ヲ最勝トス一樹ニ延命樹ト菩提樹トノ二名アル  
 コトヲ説テ乃往過去ノ因縁アリテ延命樹ト名ルコ  
 トヲ説ク一百八顆モシ其レ得カタクハ五十四二十  
 七十四亦皆用ルコトヲ得ヨトイヘリ木槌子經ニ一  
 百八顆トスルコトヲ説テ當除百八結業獲常樂果ト説  
 ク百八ノ結業トハ八十八使ノ見惑ト欲界貪瞋癡慢  
 ノ四ト色及無色界ニ八瞋ヲ除テ合テ六アリ都テ合  
 レテ九十八ヲ成ス更ニ無慙無愧昏沈惡作惱嫉掉舉  
 睡眠念覆ノ十纏ヲ加テ百八ノ結業ト名クト釋肉要  
 覽<sup>中十左</sup>ニ出タリ○佛ヲハ手ツカミニコソセラレタリト  
 ハツカムハ摺ノ字也數珠ハ佛名陀羅尼等ノ遍數ヲ

記スル法具ニシテ佛ヲツカム具ナリト謂フニ非ス  
 タ、佛像ヲ拜スルニ敬心ナク聊爾麤率ナルアリサ  
 マヲ佛ヲハ手ツカミニコソセラレタリトノ給フ間  
 他宗ニハ數珠ヲ磨鳴シ或ハ摺リテ數ヲ記スルコト  
 アリ吾祖ノ一家コノ作法ナキハ如何答念珠ヲ磨揉  
 テ鳴スコト源ト經論ノ説ニ出ルニ非ス念珠畧<sup>九右</sup>詮ニ  
 ヨルニ今時ノ道俗念珠ヲ磨揉テ祈願スルコトアリ  
 此レハ佛説ヨリ出タルニハ非ス三井寺ノ覺猷僧正  
 禁裏ノ御修法ノ後加持ノ時ニ念誦ノ真言ノ了ルコ  
 トヲ伴僧ニ知シメンカ為ニ磨リシヨリ起レリサレ  
 ハ磨コトハ祈願ノ意ニハ非ス然ルヲ後代ニ人皆誤



リ傳タルナリト云コレニヨルニ磨搽ムコト佛説ニ  
 非ス世人偽傳シテ勇猛至誠ノ姿ヲ表シ或ハ百八煩  
 惱ヲ磨滅スルノ表示トス故ニ吾一流ニハ念珠ヲス  
 ル事ナシサレトモ他家ニ念珠ヲスル事モ久シキ事  
 ト見エテ撰集鈔九卷二十九左ニ西行ノ思ヒイレテスルス、  
 音ノ聲スミテオホヘスタマル我ナミタカナト歌ア  
 リ世間愚俗多クハス、ト云笑ツヘキニ似タレトモ  
 左ニ非十五、七右源氏物語及徒然草百五十八條和語燈錄五、十六左ニ何レモス、  
 トイヒ今西行ノ歌ニモス、トヨメリ又吾一流ニ於  
 テハ念珠ヲ摺リ遍數ヲ記スルコトナシタ、レ實悟  
 記日實如上人被仰シハ珠數ハタ、モタヌ物也クル

ヘレ蓮如上人モ御持候テハ御クリ候シソカレト勤  
 ノ座敷ニテ仰事候シ霜月廿六日ニ日中ノ間ニ仰キ  
 カセラレシ御ソハチカク侍シ實圓ノ下ニ北ニツキ  
 申候時ノ事也文是念珠ヲクリテ遍數ヲ記取セヨト  
 ノ給フニ非ス兼好ノイヒケルヤウニ筆ヲトレハ物  
 カ、ント思ヒ樂器ヲトレハ音ヲタテントオモフ念  
 珠ヲトレハ稱名セシコトヲ思ヘタ、モタヌモノナ  
 リクルヘシトノ仰ト見ユ念珠ヲ摺リテ稱名セヨト  
 教エ給フ子ハコソ念珠ヲ持サルタニ妨ナキコトヲ  
 示シテ次ノ御言ニサリナカラ珠數ヲモタストモ往  
 生淨土ノタメニハタ、他カノ信心ヒトツハカリナ



リソレニハサハリアルヘカラスト示レ給フ他カノ  
 信心マコトニ堅固ニシテイサ、カ機情ニ滞ル心ナ  
 クハ何ソ念珠ヲクルコトヲ失トセン然レトモ末世  
 ノ凡愚ハヤハリ己カ機情ニオチイリ事相ニ拘リテ  
 執ヲ生ス故ニ通レテ念珠ヲ措リテ念佛スルコトヲ  
 制ス然ルニ當流末學ノ中ニモ勤メテ起行ノ邊ニカ  
 タヨル徒ハ行文類ニ安樂集ノ若久行人念多應依此  
 若始行人念者記數亦好此亦依聖教ノ文ヲ引ケルト  
 及上ノ實悟記ヲ引テ念珠ヲ措リ遍數ヲ記レテ称名  
 スルヲ方ニ吾宗ノ正義ヲ得タリト謂テ荒涼ニ鼓行  
 ス嗚呼哀ヒ哉○聖人マタク珠數ヲステ、佛ヲオカ

メト等 數珠ハ是自他宗通シテ用ユル法具ナリ聖  
 人何ソ數珠ヲステ、佛ヲ拜メト仰アラシヤ然レハ  
 數珠ノ一連ヲモモタス佛ニ恭敬ナキハ聖人ノ御意  
 ニハ叶ヒ難レト也○サリナカラ珠數ヲモタストモ  
 往生淨土ノタメニハ等 上ニハ佛ニ於テ恭敬ノ相  
 ナキヲ誠レム今ハ往生淨土ノ一大事ハ唯信心ヲ要  
 トスル事ヲ示ス聖覺ノ唯信鈔ニハタ、信心ヲ要ト  
 スソノホカラハカヘリミサルナリ信心決定シヌレ  
 ハ三心オノツカラソナハルトイヒ執持鈔ニハ往生  
 淨土ノ為ニハタ、信心ヲサキトスソノホカラハカ  
 ヘリミサルナリトノ給フコノ往生淨土ノ言眼ヲ著ヘシ



○マツ大坊主分タル人ハ等 大坊主分ノ事第一帖  
ノ初通ノ如シ○袈裟トハ本ト加沙ニ作ル梁ノ葛洪  
字苑ヲ撰スルニ至テ下方ニ衣ヲ添タリト南山ノ業  
疏味考要覽上卷ニ出タリ袈裟ハ五條七條大衣ノ三衣ノ都名也行  
事鈔下一之一五右ニ此袈裟衣者從色得名下文染作袈裟  
色味有袈裟味若據此土所翻通名為卧具文又七曰此  
云不正色染具有正翻文資持記下一之十右曰言正翻者顯  
前卧具等名皆非正故文章服儀曰如經律中通云壞色  
故文曰當以三種青黑木蘭隨用一壞成如法色文又三十八右曰  
不正壞色唯釋門所壞別邪正也文又三十九右曰明知不正即袈  
裟色也等コレ青黃赤白黒ハ五正色也此五正色ノ外

ノ何トモ名ノツカヌ色ヲ袈裟色ト云カノ六味ノ中  
ノ袈裟味四分律十六十五ノ如シ具ニハ行事鈔下一之一二衣總別篇  
並ニ資持記及章服儀等ニ委悉スルカ如シ三衣ノ中  
今家ニハ夕、五條七條ヲ用ユ夕、僧伽梨大衣ハ綽  
如上人威儀ヲ嚴カニシテ九條ノ僧伽梨ヲ著シ給ヲ  
ノミナリ今時末代ニ至テ衣財染色衣量刺縫ヨリ始  
メテ一切佛制ノ法ニ非ス曾テ袈裟ノ名義ニ非ス夕  
、釋門ノ章服ノ形タルコトヲ貴ミ愚俗ノ敬信ヲ引  
ノミ時勢ノ然ラ令ルトコ口痛傷スルニ堪タリ律儀  
八十戒ヲ持スル沙彌夕ニ縵衣ヲ著ス然ルニ無戒名  
字ノ大坊主分條堤アル五條七條ヲ著スル理アラシ



ヤ今ハ末代無戒名字ノ比丘ト雖トモ剃髮スル者ハ  
 ミ十五條七條ヲ著ルニツイテ袈裟ヲカケテモ子細  
 ナレトノ給フ也大坊主分タル人ハ數珠ハ勿論袈裟  
 ヲカケテモ子細ナレ然ルニ數珠ノ一連ヲモモツ人  
 ナキハ眞實信心ヲエタル色モ見エス恭敬ノ心ナキ  
 也ト訶シ給フ意ナリ子細ノ字第一帖ノ六通目ノ如  
 シ別ナルワケナキヲ子細ナレト云也○コレニヨリ  
 テ眞實信心ヲ乃又色ニモソノスカタハミユルナリ  
 張子厚東銘古文後集下曰戲言出於思也戲動作於謀也發於聲  
 見乎四支謂非已心不明也古歌後撰集夏部ニツ、メ共カクレ又  
 モノハ夏虫ノ身ヨリアマレルオモヒナリケリ心ニ

信心マコトニウル人ハ自ラ口ニモ出シ又色ニモソ  
 ノ相ハ見ユヘキ也信文類會本ノ字左ニ華嚴經ヲ引テ曰信無垢  
 濁心清淨滅除憍慢恭敬本文十住婆沙ノ易行品二左曰應  
 以恭敬心執持稱名誦コレニヨルニ信心ハ恭敬ノ本  
 ナリ信心マコトニエハ何ソ口ニモ出シ又色ニモ其  
 相夕顯ハレサランヤ問祖師ノ御詞改邪鈔本九右ニタトセ牛盜ト  
 ハイハルトモモシハ善人モシハ後世者モシハ佛法  
 者トミユルヤウニ振舞ヘカラストオホセアリ然ル  
 ニ今ハ信心マコトニエハ口ニモ出シ又色ニモソノ  
 姿ハ見ユルナリトノ給フハ相違スルニ非スヤ謂ク  
 コレソノ望ムル所同シカラス祖師ノ御詞ハ善導ノ



所謂不得外現賢善精進之相内懷虛假ノ文ノ意ニシ  
 テ當流ノ念佛行者ハワサト人目ニ見エテ善人フリ  
 後世者フリ佛法者フルコトヲ堅ク制シ給フ今ノ御  
 文ノ御言ハマコトニ眞實信心ヲ獲得シタル人ハツ  
 ヲメトモソノ信心ニ催サレテ自ラ口ニモ出シ又色  
 ニモソノ相ノ見ユルモノソトノ給フ也ヨテ相違ス  
 ルコトナシ語灯錄下三三黒谷ノ往生大要鈔ニ具ニ至誠心ノ相ヲ  
 釋シテソノ次ニ又加樣ニ申セハ偏ニ此世ノ人目ハ  
 何ニモ有ナレトテ人ノ誹ヲモ顧リマス外ヲカサラ  
 子ハトテ心ノマヽニ振舞カ能ト申ニテハナキ也菩  
 薩ノ譏嫌戒トテ人ノ謗リニ成又ヘキ事ヲハナセソ

トコソ誠メラレタレサレハ剃髮染衣ノ形ナレハ佛  
 法ノ通途ノ儀ヲ背クヘカラス若背カハ他ノ誹謗ヲ  
 招テ吾法流ヲ辱シメ他ヲシテ謗罪ヲ造ラシム深ク  
 慎ムヘシ○シカレハ當時ハサラニ眞實信心ヲ至才  
 ホユルナリウツクシクトハ嚴ノ字安藝ノ嚴島ノ  
 名ノ如シ嚴重ニシテ無疵ナルヲ云○ソレハイカン  
 ソナレハ彌陀如来ノ本願至タヽ人マ子ハカリノ體  
 タラクナリトミエタリ戒定慧ヨリ六度十波羅密  
 一切ノ法門ミナ我等ノ根機ニ相應セス唯彌陀ノ本  
 願ノミ如實修行相應ハ信心セトツニサタメタリマ  
 コトニ今日ノ我等ニ相應シタル御法也○身ニハ才



ホエサルカユヘニトハ是心ニモ知サルニ非ス口ニ  
 モイヘトモ深ク識心ニソマサルヲ身ニハオホエサ  
 ルカユヘニト云世人ノ身ニシマヌト云カ如シ涅槃  
 經十一卷十八日若心口作則名為輕身口心作則名為重文般  
 舟讚十四卷日非是口言即生彼會是專行不惜身コレ真心徹  
 到スルニ非シテ唯理リシル分齊人真似ハカリノ體  
 タラクナルヲ誠メ給フ也○此分ニテハ自身ノ往生  
 極樂モ到中々コレアルヘカラス 上ニ速給フ如キ  
 ヲ此分ニテハトノ給フ○イマハイカ、トハ信心徹  
 到セラレハイサシラス今ノ分ニテハ往生モ如何ア  
 ランスラントオホユルリト也○中々トハ源氏桐壺五卷

ノ卷ニモナカクナルモノオモヒヲソシ給フトイヒ  
 未考所出  
 古歌ニナカクニ山ノ奥コソスミヨケレ草木ハ入ノ

名ヲモイハ子ハトヨミナカクニナキタマナラハ古  
 未考所出

里ニカヘランモノヲ今日ノ夕暮ト讀ル如キハカヘ  
 リテト云詞ニカウヘリ自身タニモ身ニソミテタフ  
 トサヲオホエス人ナミノ體タラクニシテ往生モイ  
 カ、ト危クオホユマシテ門徒同朋ヲ勸化ノ儀モカ  
 ヘリテコレアルヘカラスト也○カクノコトキノ心  
 中ニテハ至報土往生モ不可ナリ 散善義三卷ノ至誠心  
 ノ釋曰欲迴此雜毒之行求生彼佛淨土者此必不可也  
 コノ語ヲ公用ス往生ヲウヘカラス故ニ不可ナリト



云也○アラく勝事ヤ至乃思案アルヘシ アラクトハ  
 阿那ノ轉セルナリ舊事本紀二左曰事之甚切皆稱阿  
 那文故ニ已大痛ノ三字々ナ阿那ト訓ス詞ヲ重子テ  
 アラクト云ハ痛傷スル事ノ甚キ也○勝事トハ今ノ  
 世ノ笑止ト云ト同レ東鑑二十四左ニ種々ノ不吉ノ  
 事ヲ載ルニ抑今日勝事兼示爰異事非一トイセ平家  
 物語一右ニ此事天下ニヲセテコトナル勝事ナレハ  
 公卿僉儀アリテ各異見ヲイフトアリ古今著聞集十  
 六右盛衰記十二モ勝事ノ字ヲ用ユ勝事ノ字ニ就テイ  
 ハ、大事ト云コト、モ見ユレトモ昔ハ勝事トモ笑  
 止トモ言テ一定セスト見ユ實悟記六左一二二月十五日

涅槃忌ナキコトヲ記シテ圓如上人モ又難レ申コト  
 御聞候一段ト勝事ニ思食トイヒ又三六十右ノ卷ニモヨミ  
 様存タル人ナクテ候既ニ断絶事候勝事之儀候トモ  
 又三五十九右ノ卷ニ六要鈔ヲハ當時ヨム人ナク笑止トノ仰  
 事トイセソノ外多ク笑止ト書ケリ源氏ノ孟津鈔ニ  
 小勝事トモ笑止トモ通レテ用ヒタリ○マコトニモ  
 テ至乃信心決定スヘキモノナリ 安世高ノ譯スル處  
 處經右曰佛言出息不還則屬後世 文止觀四ノ曰一息不追  
 千載永往○佛法ヲコ、口ニイレテトハ總ヲ舉テ別  
 シテ本願ノ一道ヲ指スナリ

第六通



抑當流ノ他力信心ノヲモムキヲ等 此一通世ニ捉  
 ノ御文ト云當流ノ捉ハ改邪鈔及破邪顯正鈔ニ具ニ  
 彰ハレタリ箇條ノ制詞ハ祖師ノ二十一箇ハ越後ノ  
 淨興寺ニ儼存シ十七箇條ハ高田流ニ傳レリ蓮如上  
 人ニ至テハ文明五年十一月十一條ノ制詞帖外及  
 六箇條ハ十條等ノ御文コレソノ制詞ナリソノ時ノ  
 弊ニ乘レソノ急ナルヲ制止シ給フ曾テ新規ヲ立テ  
 事ヲ煩ハシクスルニ非ス○他宗他人ニ對シテ沙汰ス  
 ヘカラス到コレヲ讚嘆スヘカラス 易ノ略例曰同  
 舟而濟則胡越何患乎異心文骨肉ノ親族ニ非ルモ同  
 舟如來ノ願舟ニ乘セハ何ソコレヲ他人トシテ沙汰

スヘカラスト云ハンヤ然レハ今ハ他宗ヲ指テ直ニ  
 他人トノ給フナルヘシ又當宗ノ人ナリトモ一味ノ  
 安心ニ住セサル人ハ他人トモ云ヘシ問本願一實ノ  
 大道一天下ニ鼓行スヘシ何ノ疾アリテ他宗他人ニ  
 沙汰スヘカラス等ト誠メ給フヤ謂ク弘願念佛ノ一  
 道ハ經論師釋明著爛然タリ八家九宗ニ於テ何ソ恐  
 レ憚テ沙汰スヘカラスト誠ニヤ五帖目ノ御文ニ此  
 義ハ當流一途ノ所談ナルモノナリ他流ノ人ニ對シ  
 テカクノコトク沙汰アルヘカラサル所ナリトノ給  
 フヨリ見レハ信心決定スレハ不断煩惱ノ惡機正定  
 聚ニ住ストモ滅度ニ至ルトモ開テハ他宗他人耳ヲ



驚カシ心ヲ駭カス法琳琳イヘル事アリ江南吳不信有  
 千人帳河北漢不信有辨正論八十一卷萬石船コレヲ信セサルモ亦宜  
 ナリ信セサレハ終ニ誹謗シ惡道ニ墮スル因種ヲウ  
 エンコトヲ怒ル且ツ路次大道關屋舟中ニテモ憚カ  
 ラスアラハニコレヲ讚嘆スルハ無上ノ大法ヲ輕忽  
 スル勿體ナキノ極ナリ故ニ處々ニ數々誡メ給フタ  
 トヒ一宗ノ門徒ノ中ニテモ宿善无病善ノ機ヲ分別  
 シ信不信ノ機ヲカシカミテ人ヲハ勸化スヘシトノ  
 給フ況ヤ佗宗他人ニ對シ路次大道ワレクノ在處ナ  
 ントニテモ人ヲモハ、カラス頭露ニ讚嘆スルヲ制  
 セサラシヤ路次大道トハ同シ事ヲ言ヲ重ヌソノ中

ニ路次トハ徑路ノホトリ道ノ邊ト云ト同シ○讚嘆  
 トハ吾一宗ニハ法談法話ヲ讚嘆ト云淨土論ノ讚嘆  
 門及ヒ善導ノ讚嘆供養正行ノ名アルヲ取ナルヘシ  
 ○ツキニハ守護地頭方ニムキテ玆イヨク公事ヲマ  
 タクスヘシ 一國ヲ領スルヲ守護トイヒ一郡一郷  
 ヲ治ルヲ地頭ト云往古ハ海内ニ十朝廷ヨリ國司ヲ  
 下シテ諸國ヲ治メ給フ右大將賴朝ノ時ニ至テ武將  
 ニ委任シ給フ承久記上ニ右曰古ハ下司庄官ト云計リニ  
 テ地頭ハ無リシヲ鎌倉右大將朝敵ノ平家ヲ追討シ  
 テソノケ勸賞ンシヤウニ日本國ノ總追補使ニ補セラレ  
 テ國々ニ守護ヲ置キ郡郷ニ地頭ヲスヘ段別ニ兵糧



ラアテトラル、間領家ハ地頭ヲソ子ニ地頭ハ領家  
 ヲアタトス○疎略トハ類書纂要十二左一忽略志○公  
 事ヲマタクスヘシト孟子滕文公上篇ニ公田私田ヲ  
 養フ事ヲ述テ曰公事畢然後敢治私事文居家必用十  
 五秤公事无私曰公有所作爲曰事コレ定レル年貢所  
 當ヨリ始メテ守護地頭ヨリ下民ニカ、ル課役ヲ公  
 事ト云今ノ俗公訴ヲ公事ト稱スルヲ云ニハ非ス○  
 マタクハ全ノ字也僧正遍昭家集勅本不傳ニサ、カニノ空ニ  
 巢カクモ同シコトマタクキ宿ニモイクヨヲカヘシト  
 ヨメリ此御文ハ人多クマタクトヨメトモ慧空ノ歡  
 喜鈔ニ慶聞坊龍玄カ教ヘタルハマツタクトツメテ

全ノ字ノ訓ニヨムヘシト堅田ノ日記ニ見ヘタリト  
 書レタリ次上ノ御文ノ聖人マタク珠數ヲスチ、ノ  
 御言モマツタクトツメテヨメハ堅田ノ日記ノ説ヲ  
 是トスヘシ己カ自由ヲカマヘス公用ヲカ、サルヲ  
 全スト云也○又諸神諸佛菩薩ヲモ至六字ノウチニ  
 コモレルカユヘナリ次上第三通ノ如シ○コトニホ  
 カニハ王法ヲモテオモテトシ等 外相ト内心ヲ分  
 テ佛法ヲ表ヘ顯ハサス内心ニ深ク畜フヘキコトヲ  
 示ス破邪顯正鈔中曰佛法王法ハ一雙ノ法ナリトリノ  
 フタツノツハサノコトシクルマノフタツノ輪ノコ  
 トシヒトツモカケテハ不可ナリカルカユヘニ佛法



ヲモテ王法ヲマモリ王法ヲモテ佛法ヲアカムコレ  
 ニヨリテ上代トイヒ當時トイヒ國土ヲオサメマシ  
 マス明主ミナ佛法紹隆ノ神願ヲモハラニセラレ聖  
 道トイヒ淨土トイヒ佛教ヲ學スル諸僧カタシケナ  
 ク天下安穩ノ祈請ヲイタシタテマツル一向專念ノ  
 トモカラナレソコノコトハリヲワスレシヤ丈夫出  
 家發心ノ本意ハ親ヲ辭シテ棄息入無為眞實報恩者  
 トイヒ大集經十一右九ニハ汝今出家即是報佛若能如  
 是生信捨離是名大報ト説クヨリ梵經下十九右ニハ出家人  
 法不向國王禮拜不向父母禮拜六親不敬鬼神不禮ト  
 説ク然ルニ佛法ニ遇フハ實ニ國王ノ恩化ノ致ス所

ナリ故ニ四十華嚴十二如若無王力功行不成法滅無  
 餘況能利濟文諸經ノ付属多ク國王ニ勸持セシムヨ  
 ツテ四地觀經二ノ二左恩ノ中ニモ國王ノ恩ヲ報スヘキコトヲ説ク  
 聖道トイヒ淨土トイヒ何リ國恩ヲ忽緒センヤ就中  
 吾宗ノ如キハ為凡ヲ先トシテ剃髮染衣ノ身ナカラ  
 妻孥ヲ畜テ在家ト同シ市中ニ道場ヲ構ヘテ在家ノ  
 厄入道ヲ教化ス國豊ニ民富テ兵戈用ルコトナキ世  
 ニ遇テ飽マテ法ヲ教化シ心ノマ、ニ法ヲ聽聞スル  
 ハ實ニ國王大臣ノ恩化ナリ豈出家剃染ノ身ナリト  
 謂テ國家ノ恩致ヲ等閑ニセシヤヨリテ破邪顯正中十五左鈔  
 曰生々ニウケシ六道ノ生ヨリハコノタヒノ入身ハ



モトモヨロコハシク世々ニカウフリシ國王ノ恩ヨ  
リハコノトコロノ皇恩ハコトニオモシ世間ニツケ  
出世ニツケ恩ヲアフキ徳ヲアフクイカテカ王法ヲ  
忽緒シタテマツルヘキヤイカニイハンヤ專修念佛  
ノ行者在々所々ニシテ一滯ヲノミ一食ヲウクルニ  
イタルマテ總シテハ公家關東ノ恩化ナリト信レ別  
シテハ領主地頭ノ恩致ナリトシル公私ニツケテサ  
ラニ違背ノ儀ナレズ是ニヨルニ一宗ノ徒ハ特ニ王  
法ヲモテオモテトスヘキ事道理必然也○王法トハ  
國家ノ憲政ヲ云○仁義トハ五常ノ初人道ノ常ナリ  
書ノ泰誓曰今商王受押侮五常勅通曰典常之理即仁  
下三右

義禮智信也此皆天理ノ自然人心之固有コレヲ佛教  
ニ取レハ即五戒大經ニ説ク五惡五善也淨土ヲ願フ  
人何ソ是ニ背ンヤ實ニ本宗ノ掟ノ御文ト謂ヘシ

第七通

靜ニオモンミレハソレ人間界等 唯五戒ノミニ局  
テ人界ノ生ヲ受ルニ非ス餘善モ亦人道ノ生ヲ招ク  
然ニ三惡道ハ上中下三品ノ十惡ヲ因トシ天上八十  
善人道ハ五戒ノ報ト説クハ是通因ニシテ佛説明白  
也夕、蓮如上人ノ説ノヤウニ謂フハ非也法苑珠林  
六十五、九二右  
五十二右樹提伽經ヲ引テ何物得生天十善得生天何  
物服人身五戒服人身辨正論一辯寔化比丘經ヲ引テ



五戒人根十善天種安樂集曰縱有人天果報皆為五戒  
十善能招此報然持得者甚希上釋是ヲノ説ニヨルニ人界  
ニ生ルハ五戒ヲ持ル功力ナル事明ケレ問其五戒ハ  
何レ時持テルヤ今日ノ我等ハ必定今マテ三惡道ニ流  
轉シテ漸ク人間界ニ浮ミ出タル者ナルヘシイツノ  
間ニ五戒ヲ持ル事有レ不審ナキニ非ス如何答雪寔  
老人曰定テ五戒ヲ持ルニ非ス五戒相當ノ善ヲ修ス  
ルヲ云經ノ中ニ一句聞法ノ功力多生人天ノ果ヲ招  
クト説ク是也ト今謂曠劫多生ノ間五戒ヲ持テシ功  
力ハ持テカラ業道如秤重者先奉ノ理マツ惡業ニ引  
レテ徒ニ惡道ニ沈淪シ其罪業ヲ償ヒ終テ曠劫多生

ノ昔五戒ヲ持ル功力今顯レテ人間界ノ生ヲ感ス喻  
ハ百金ヲ懐袖ニスレ氏千金ノ病債ヲ買ハ、纒力百  
金ヲモテ千金ノ債ヲ償フニ足ラス家居ヲ壞テ資具  
ヲ散シテ病債ヲ償フ病債ヲ償ヒ終レハ百金ハ我所  
有ナレハ更ニ家居ヲ構ルカ如シニ義ノ取捨情在スノ  
ミ涅槃經ノ中ニ三途ニ墮ハ世界ノ大地ノ如ク人天  
ニ生ルハ凡上ノ土ノ如シト説ク故ニコレ大ニ希ナル事ソ  
カシトノ給フ○且浮生九ノ四十三左莊子説斂篇曰一旦命已絶矣  
史記百一左六夫一旦有急叩門不以親為解止觀七之二  
辭一旦命終假借還本史記百一左四一旦有緩急寧足恃  
乎○浮生古文後集李太白宴桃李園序曰浮生如夢為歡幾何



杜詩曰浮生者物變為恨與年滅○永生ノ樂果法事讚  
集解 四十五  
ノ語○榮花乃榮耀第一帖ノ十一通ノ如シ未考去義分○ホコル  
ハ誇ノ字也○盛者必衰會者定離 涅槃經二右六曰夫  
盛必有衰合會有別離未生怨經二右曰盛者即衰合會有離  
法句經十二左曰合會有離生者有死婦人遇辜經二左曰合會有別  
生者有死止觀七之二左仁王經四非常ノ偈ヲ引テ曰  
盛者必衰實者必虛是ヲノ語ニヨル榮華榮耀ノ盛十  
ルモ合會シテ歡樂スルモ盛者必衰會者定離ノ境十  
レハ久ク保ヘカラス愛欲榮華不可常保ノ文ノ意○  
ソレモ老少不定等縱ヒ長年ヲ保得凡人生百ニ滿夕  
ス宛モ蟬蟬ノ如シマシテ末ノ露本ノ粟ト後レ先夕

ツ不定ノ世界夕ノミスクナシ○サラニ智慧モイラ  
ス等 是四對ヲ速テ皆イラスト云ハ五會讚本廿八左ニ不簡  
貧窮將富貴不簡下智與高才不簡多聞持淨戒不簡破  
戒罪根深ト云不簡不論普ク衆機ヲ攝スル事ヲイラ  
ストノ給フ五會讚ノ文ハ唯信文十左意ニ釋スル如シ○  
才覺大星 廿七ノ下右ハ唯信文意ニハ高才ハ才覺ヒ口キモノト云文  
選班大星 廿七ノ下右健好カ怨歌行ノ呂向註曰少有才覺 文三十五ノ右晉書王珣  
傳曰以才學文章所昵 文學覺音似テ濫スルナルヘシ  
○ソノ正行ニ歸スルトイフハ等 善導ノ雜行ニ對  
シテ正行ニ歸スルト云時ハ五種ノ正行ニ通ス然ニ  
正行ニ歸スルト云ハト標シテ唯稱名正定業ノ一行



二就テ一心一向ニタノミ奉ル理リハカリトノ給フ  
 帖外御文二載タル文明五年正月十日ノ曰善導和尚ノ釋ニ正雜二行トタテ、雜行  
 ラステ、正行ニ歸スルヲモテ信心ノ體トスソノ正  
 行ノウチニ五種ノ正行ヲタテ、ソノナカニ第四ノ  
 稱名正行ヲモテ往生ノ正業トストミヘタリサレハ  
 南无阿彌陀佛ヲモテ我等カ往生ノ正業トストキコ  
 ヘタリ又善導釋シテイハク南无トイフハ歸命マタ  
 コレ發願迴向之義ナリト釋セリコ、ロハイカシト  
 ナレハ歸命トイフモ發願迴向トイフモオナシコ、  
 ロナリコレハ歸命トイフハ彌陀如來ヲフカクタノ  
 ミタテマツルコ、ロナリ阿彌陀佛トイフハ南无ト

歸命スル衆生ヲオナシクタスケタマイテ遍照ノ光  
 明ヲモテ念佛ノ衆生ヲ攝取シテステタマハサルコ  
 ヲロナリコレスナハチ南无阿彌陀佛ノ六字ノ體ハ  
 一切ノワレヲカ往生ノサタマリタルスカタナリト  
 コ、ロウヘシコレヲ一念ノ信心決定セシメタル人  
 トナツクヘキモノナリ此御文ニヨルニ第四ノ稱名  
 正行ニツイテ一心一向ニ南无阿彌陀佛ト稱フルコ  
 レ彌陀如來ヲフカクタノミ奉ル理リ也○ハカリナ  
 リトハ餘事ヲ顧サル事ヲ示ス元祖黒倉傳五ノ初聖人ノ南无阿彌  
 陀佛トイフハ別シタル事ニハ思フヘカラス阿彌陀  
 ホトケ我ヲタスケ給ヘトイフコトハト心得テトノ



給ヒ吾祖ハ南无阿彌陀佛トタノマセタマヒテムカ  
 ヘント未登抄十四右ハセタマヒタルニヨリテトノ給フ蓮  
 如上人ハ彌陀ノ名ヲキ、ウルコトノアルナラハ南  
 无阿彌陀佛トタノメミナヒトト詠シ給フ去ハ彌陀  
 ノ御名ニタノム者ヲ助給フ理アル事ヲ聞得テ南无  
 阿彌陀佛トタノム也故ニ今一心一向ニタノミ奉ル  
 理リハカリ也トノ給フト可知必浄土ニヲクリタマ  
 フトハ往生中本水四左要集ニ平等覺經ヲ引テ阿彌陀佛與觀世  
 音大勢至乘大願船乃至汎生死海就此娑婆世界呼喚衆生  
 令上大願船送著西方此文ノ意也○サレハ安心トイ  
 フ二字等散善義三右ニ安心起行ノ語アリ禮讚二右ハ安心

起行作業ヲ分テ三心ヲ安心トシ五念ヲ起行トシ四  
 修ヲ作業トス今安心ノ二字ヲヤスキ心ト讀ルトノ  
 給フハ最要鈔初卷及第一帖十五通目ニ信心トイヘル二字ヲハマ  
 コトノコ、口トヨメルナリトイヒ此帖十五通目ニ  
 阿彌陀トイフ三字ヲハオサメタスゲスクフトヨメ  
 ルイハレアルカユヘナリナトノ給フト同例ニシテ  
 義ヲ轉シテ俗耳ニオツル様ニ教給フ梁攝大乘論卷六  
 ニ四意ノ中ノ平等意ヲ釋シテ平等法身安置心中説  
 如是言止觀ニ六十四番安心ヲ示ス輔行五之三十七右ニ釋  
 シテ善以法性自安其心故名安心是ラハ法ヲ心ニ置  
 ヲ安心ト云安置ノ義也大集日藏分九結爾時安心候



莫驚怖本行集經三五大王安心莫驚莫怖是ラハ安足  
 安穩ノ義也左般舟讚曰安心定意生安樂コレ安定ノ義  
 也今ハ安定ノ義ヲ轉シテ安易ノ義トシテ心得易カ  
 ラシム義ヲ轉スル例ハ第一帖ノ初通ニ出ス力如シ  
 其餘ノ例ハ論註上十五左二雨功德ヲ釋ニ雨下ノ雨ハ去聲ナ  
 ルニ風雨ノ雨ヲモテ雨適時則無洪滔之患ト釋シ吾  
 祖一多證文ノ即得往生ノ即ノ字ヲ即位ノ即ニ約シ則是具足  
 ノ則ノ字ヲ法則ノ義ニ約シ是人ノ是ノ字ヲ非人ニ  
 對シテ釋スル等ノ類ニ十義ヲ轉シテ釋ス今ノ御文  
 ノマニ非ス○造作 類書纂要六杜造作脩造有野增  
 益曰作文今俗ニコシラヘツクルヲ造作ト云ヲ用ユ

○アラコ、口エヤスノ安心ヤ等上ノアラク勝事ヤ  
 ト同シ意ニシテ事ノ甚ヲ顯シテアラト云前後シハ  
 く安易ノ義ヲクリコトニ遊シタルハ殊ニ易往易行  
 ノ理ヲ顯ス也○コレニヨリテ大經ニハ易往而無人  
 等尊號第六銘文曰易往而無人トイフハ易往ハユキヤス  
 シトナリ本願力ニ乘スレハ本願ノ實報土ニムマル  
 ハコトウタカヒナケレハユキヤスキナリ無人トイ  
 フハヒトナシトイフヒトナシトイフハ眞實信心ノ  
 人ハアリカタキユヘニ實報土ニムマル、人マレナ  
 リトナリ文今ノ御言此御文ノ意也善導ノ安心起行  
 ノ名ニ依テ安心ヲ取テトイヒ經ノ信心歡喜ノ文ニ



依テ信心ヲトル人マレナレハトノ給フ○コヽ口ヲ  
トヽメテトハ次上ノ第一通ノ如シ○トリヤスキ信  
心トハ安心ト云ハヤスキコヽ口トヨメルト同シ意  
也阿彌陀經問經ニ難信之法廣淨土經氏極難信法廣淨土經氏說キ釋廣淨土經二億劫廣淨土經巨獲  
氏御自經大信心海甚以巨入從佛力發起故トノ給フ今何ソ  
取ヤスキ信心ト云ヤ謂ク此法不可思議ナレハ實ニ  
極難信ノ法億劫ニモ獲難シ大悲廣慧ノ佛力ヨリ發  
起スルヲモテ得難コトヲ比量シ給フ他力迴向ノ信  
心ナレハ智慧モ才覺モイラス加行モ練磨モイラス  
唯仰テ深ク信スルハカリ也故ニ取ヤスキ信心ノ趣  
ヲ存知シテトノ給フ意ヲ留テノ御語可深味

御文記事珠卷三末

第二帖 八通

夫十惡五逆ノ罪人モ五障三從ノ女人モ等 十惡五  
逆五障三從ノ事第一帖ノ七通目ノ如シ問南本十八ノ三右涅槃經曰  
父母之心非不平等然於病子心則偏重文無上依經上  
左八世界究竟不捨衆生為利益事 諸仏已ニ衆生无辺  
誓願度ノ誓アリ何ソ十惡五逆ノ罪人五障三從ノ重  
病ノ者ヲ捨ハテ給ハンヤ如何答然リ諸仏ノ大悲心  
偏ニ常没ノ衆生ヲ愍念シ給フ爭カ惡人女人ヲ棄捨  
セニヤ喻ハ良医ノ一切ノ病ヲ療シテ隔サレトモ難  
治ノ病ニシテアマサヘ口ヲ嚙テ藥ヲ服セス禁忌ヲ



慎マサレハイカナル良医モ如何トモスルコト能ハ  
サルカ如シ諸仏モ亦然リ諸仏ノ大悲コレヲ棄ルニ  
非ス二本衆生ノ重惡ナルニヨリテ捨ラル、ナリ第一帖  
ノ十通目ニ具ニ經ノ諸文ヲ援カ如シ先輩惠空ノ歡  
喜鈔ニコレ弥陀ノ本願ヲ超テスル根源淨土一門ノ  
興起スル基本ナレハ諸文ヲ援証セラル今其梗概ヲ  
出サハ大悲念陀利經五左婆訶世界賢劫中人轉壽千  
歲為此智惠諸善丈夫之所棄捨當於尔時為三界生灰  
因緣所逼无救无趣无所捨皈依苦器所因此衆生各取  
煨土文又日五七是一切大菩薩皆發大悲然棄彼時惡世熾  
盛衆生处在闇昧之中皆是所棄文又日十五惡心衆生尔時

充滿婆訶世界彼諸衆生為一切薩婆若所棄无仏利  
文 大集經二十八右二若淨世界所擯之人悉在彼土婆娑所  
謂五逆謗方等經毀咎聖人犯四重禁如是人等多共汚  
辱娑婆世界文大法鼓經下三迦葉白佛言世尊我終不  
能摸彼惡人寧以兩肩荷負須弥至百千劫不能堪忍聽  
彼惡人犯戒滅法謗法汚法如是諸惡非法音同上色又日我  
寧恒受聾盲瘖瘂不能堪忍聽彼惡人毀犯淨戒為利出  
家受他信施如是諸惡非法音色コレヲノ經文ニヨル  
二十方三世ノ諸仏ノ慈眼ニモ見放タレ諸教ノ得脱  
ニモハツレテ一切ノ三宝ノ慈悲ニ棄捨セラレテ憑  
ムヘキ諸仏菩薩モナク修スヘキ法モナシタ、我等



出離生死ノ一路弥陀ノ本願ヲ除テハニツモ三ツ  
 モアルヘカラス嗚呼アリ難キカナ忝カナ軀ヲ糜キ  
 骨ヲ碎クトモ何ソ海滴ノ一端ヲ謝セン○シカレハ  
 コ、ニ弥陀如来ト申ハ等 本師本仏ノ夏ハ此帖第  
 三通ノ如シ本師本仏ノ義ハ久遠實成ノ阿弥陀ヨリ  
 立給フ口傳下初及諸神本懐集末十七卷下ノ如シ○イマノコトキ  
 ノ諸仏ニステラレタル等 上ニ己ニ捨ハテラレタ  
 ル夏ヲ示シ給フ指テ今ノ如キノトノ給フ又末代今  
 時ノ如キト云夏トモ見ユ○極樂ニ往生スルミチフ  
 タツモミツモアルヘカラス 科註二廿六左法華經二十方仏土中  
 唯一乗法无二亦无三ノ文ノ意ヲ含ム山科遺言 末六右フタツトモ

ミツトモ咲ヌ花ナレハタ、一乗ノ法拍カナト讀ル  
 是也○コレマコトニ我等カ往生ノ決定スルスカタ  
 ナリ 一心一向ニタノミ奉ル立地ニ攝取ノ光明ノ  
 中ニ撮メ取レテ信心タチ口クコトナレ末灯鈔廿九右曰往  
 生ノ心ニウタカヒナクナリ候ハ攝取セラレマイラ  
 セタルユヘトミエテ候文疑ナクナルハ攝取ノ光益  
 ナリ攝取不捨ノ利益ユヘ往生ハ決定スルナリ

第九通

抑阿弥陀如来ヲタノミタテマツルニツイテ等 万  
 善万行ヲ雜行ト名テキラヘルハ阿弥陀ノ第十八ノ  
 本願ニ順セサレハ也第十九ニ修諸功德ノ願アレト



元祖ハ善導ノ意ニヨリテ諸行非本願ノ義ヲ立ツ  
 撰撰集ノ如シ本十五右○ソレ弥陀仏ノチカヒマシマスヤウ  
 ハ乃大願ナリ コレ第十八願ノ意ヲ述ス然ニ末灯  
 鈔ニ二十左弥陀ノ本願トマフスハ名号ヲトナヘンモノヲ  
 ハ極楽ヘムカヘントチカハセタマヒタルヲフカク  
 信シテトナフルカメテタキコトニテ候ナリトノ給  
 ヒ文類ニ如来本願显称名ト示シ給フ道綽善導本ヨ  
 リ称我名字称我名号ト釈ス然ルニ今ハ一心一向ニ  
 我ヲタノマン衆生ヲスクヒタマハントイヘル大願  
 ナリトノ給フハ大ニ齟齬スルニ非スヤ謂ク曾テ齟  
 語スルコトナレ至心信樂欲生我國乃至十念ト誓フ

タスケ在セト思フ一念ノ信マコトナレハトノ給フ  
 至心信樂欲生ハコレ如来ヲタノム一念ノ信マコト  
 ナルナリソノタノム信心カコニアラハレテハ乃至  
 十念南无阿弥陀仏ナリヨリテ元祖ハ南无阿弥陀仏  
 トイフハ別シタル事ニハ思フヘカラス阿弥陀ホト  
 ケ我ヲタスケ給ヘトイフコトハ心得テトノ給ヒ  
 吾祖ハ南无阿弥陀仏トタノマセタマヒテムカヘン  
 トハカラハセタマヒタルニヨリテトイヒ蓮如上人  
 ハ南无阿弥陀仏トタノメミナヒト、詠シ一念南无  
 阿弥陀仏ト命シタテマツルウチニ三ナコモレル  
 カユヘニトノ給フサレハ至心信樂欲生我國乃至十



念センモノ若シ生セスハ正覺ヲ取シト誓フハ我ヲ  
タノメタノムモノヲ救ハスハ阿弥陀トナラシト也  
○一心一向トイフハ次ノ文ニ釈シ給フ大經ニハ三  
信ト説キ觀經ニハ三心ト説キ小經ニハ一心ト説キ  
論ニハ一心トアラハセリ大經ノ三輩生ニハ一向專  
念无量壽仏ト説キ善導散善義廿七左ハ一向專稱弥陀仏名ト釈ス  
御傳下ニハ一向專念ノ義ハ往生ノ肝腑自宗ノ骨目ナ  
リトノ給フ故ニ一多証文十六右曰一心專念トイフハ一心  
ハ金剛ノ信心ナリ專念トイフハ一向專修ナリ一向  
ハ餘ノ善ニウツラス餘ノ仏ヲ念セス專修ハ本願ノ  
ミナラフタコ、ロナクモハラ修スルナリ文又元祖

ノ念仏往生義曰詮スル所ハ只一向專念ト云ル事ア  
和語燈七、四右筋ニ弥陀ヲ憑ミ念仏ヲ修シテ餘ノ事ヲ雜ヘサ  
ル也文コレラノ文ニ依テ心ウヘシ○イカトルツミ  
フカキ機ナリトモトハ十方衆生ト誓テ機ヲ簡ハサ  
ルコトヲ示ス先輩空公ノ歡喜鈔ニ第十八願ノ願体  
ヲ論シテ一者稱我名号ノ口稱ヲ願体トス二者至心  
信樂欲生ノ三信ヲ願体トス三者信樂乃至十念ノ信  
行ヲ願体トス唯信唯行ナラハ別時意ニ隨散善義四右ス四者他  
カヲ願体トス乘我願カトモ乘彼願カトモ莫不皆乘  
阿弥陀仏大願業力等ト釈スル是ナリコノ四義ノ中  
第三ノ義過ナキ正義ト聞エタリ然レトモソノ信ソ



ノ行モシ自カノ信行ナラハ本願ノ意ニ非ス往生モ  
不定ナリ然レハ他カヲ願体トスト昏レタリ具ニ諸  
文ノ証ヲ引テ辨究スルコトカノ空公ノ願彼仏願記  
ノ如シ今謂願体ヲ論スルコト望西樓主ノ鈔ニ始テ  
三心ハ要ナリトイヘトモ願体ニ非ス十念ヲ願体ト  
スト定ム是四義ノ中ノ初ノ義ナリ吾祖ノ末二十七右灯鈔ノ  
叙ハ就行立信ノ次第ニヨリタモフ願体ヲ論スルニ  
非ス第二ノ義ハ信心ヲ本トセラル信文善本初ハ願スレトモ  
信ニカタヨルノ過失ヲ招クヘシ吾祖念仏往生ノ願  
至心信樂ノ願ト名ケ行未灯鈔廿六左ト信トハ御子カヒヲ申ナリ  
トノ給フ信樂十念相離レタルモノニ非ス別物ニ非

ス他カ廻向ノ信行ナレハ若強テ願体ヲ論セハ予ハ  
第三ノ他カ廻向ノ信行ヲ体トスルヲ正義トスヘシ  
○サレハ外典ノコトハニイワク至貞女ハ二夫ヲナ  
ラヘストイヘリ 齊ノ王蠋ハ賢徳アル臣也王ノ政  
ヲ懈リ奢レルヲ諫テ忠言ヲ尽スト蚕トモ王従ハス  
故ニ身退テ画邑ニ隱居ス燕王樂毅ヲ將軍トシテ齊  
ヲ伐シムルニ齊ノ軍敗レテ国亡フソノ時樂毅コノ  
王蠋カ賢ナルヲ知テコレヲ敬シテ画邑ノ中方三十  
里ニ軍馬ヲ入レスコレヲ驚サス國ヲ亡シ終テ使ヲ  
王蠋ニ遣ハシ礼ヲ厚クシ燕ニ臣タランコトヲ求ム  
コノ時齊ノ王蠋カノ使者ニ向テ曰忠臣不事二君貞



女不更二夫ト即チ樹枝ニ繩ヲカケ自ラ縊リテ死ス  
 ト史記八十二三田單傳ノ贊ニ出タリ○阿弥陀如来  
 ハ三世諸仏ノタノニハ乃至イヨクタノモシキナリ  
 初ニハ仏体ニ就テ本師々匠ノ義ヲ明スコレ般舟經  
 ノ意ニヨル上ニ已ニ并スルカ如シサテ南无阿弥陀  
 仏トイヘル行体等ノ御言ハ行体ニ就テ示シ給フ大  
 經二左ハ為得大利則是具足無上功德ト説キ稱讚淨土  
 經六右ハ无量无边不可思議功德名号ト説キ淨土論ニ  
 ハ功德大宝海ト示シ曇鸞摩尼宝珠ニ喩テ万善ヲ  
 生スルコトヲ顯ハシ三左禪林ノ十因ニハ九香ニ比シテ  
 衆德ヲ具スルコトヲ示シ元祖ノ選本二十右撰集ニハ屋舎ニ

喩ヘ祖師ハ斯行即是攝諸善法具諸德本極速因滿真  
 如行文美初右一實功德宝海ト給フ豈万善万行ノ總体ニアラス  
 ヤ○イヨクタノモシキナリト小神詩蓼莪曰无父何怙无  
 母何恃善ノ怙ムヘキナク德ノ恃ムヘキナキ我等コ  
 ノ如来ヲ离レテハ何レノ仏何レノ法ヲカ恃怙トセ  
 ンヤ○弥陀如来ヒトリタスケントイフ誓願ヲヲコ  
 シタマヘリトフカク信シテ至乃信心獲得ノ行者トハ  
 イフナリ如来ノ誓願ヲ深ク信スルユヘニ一念皈  
 命ノ信心ヲ起スナリマコトニ宿善ノ開發ニモヨホ  
 サレテ仏智ヨリ他カノ信心ヲアタヘタマフカユヘ  
 ニトノ給フ御言ナシニ直ニ一念皈命ノ信心ヲ々コ



七ハ仏心ト凡心トヒトツニナルトコロヲサシテト  
 ノ給ハ、聞エ易カルヘシ何ソ廻リ遠キヤウニ遊ハ  
 シタルヤ謂ク一念皈命ノ信心ヲ、コスハ遇獲<sup>本六左</sup>信心  
 遠慶宿縁トアレハソノ信心ヲ、コスハマコトニ宿  
 善ノ開發ニモヨホサレテコソ起ルナレ又仏智ヨリ  
 他力ノ信心ヲアタヘ給フニアラスハタ、凡夫自力  
 ノ迷心ニシテ仏心ト凡心ト一ツニナル所ヲサシテ  
 トハ云ヘカラス意ヲ留テ拜視スヘシ○<sup>散善初左</sup>仏心ト凡心  
 トヒトツニナルトコロヲサシテ等 善導ハ衆生貪  
 瞋煩惱中能生清淨願往生心ト叙シ吾祖和讃ニ弥陀  
 智願ノ廣海ニ凡夫善惡ノ心水モ皈入シヌレハスナ

ハチニ大悲心トソ轉スナルトノ給フ最要鈔曰コノ  
 信心ヲハマコトノコ、口トヨムウヘハ凡夫ノ迷心<sup>初左</sup>  
 ニアラスマタク佛心ナリコノ佛心ヲ凡夫ニサツケ  
 タマフトキ信心トイハル、ナリ等願々鈔曰シカレ<sup>五左</sup>  
 ハ至心信樂トイフハ凡夫自力ノ心ニアラスシカレ  
 ナカラ佛心ナリシモノ乃至一念モ願力ヨリ成スト  
 シルヘシ改邪鈔曰シカレハ凡夫不成ノ迷情ニ令諸  
 衆生ノ佛智滿入シテ不成ノ迷心ヲ他力ヨリ成就シ  
 テ願入弥陀界ノ往生ノ正業成スルトキヲ能發一念  
 喜愛心トモ不断煩惱得涅槃トモ入正定聚之數トモ  
 住不退轉トモ聖人叙シマセリコレヲノ御文ニ



ヨルニ今マテ疑テ非タルハ凡夫ノ持マヘノ心ナリ  
疑蓋魚雜乃至一念疑ハ又信心ハ佛智ヨリ授給フ佛  
心ナリカノ濁タル水ニ摩尼宝珠ヲ入レハ濁レル水  
忽ニ清水トナルカ如ク衆生ノ心ヲ取テ除クルニ非  
ス凡心カ即佛心トナツテ他カ迥向ノ信心ヲ成就ス  
ユヘニ佛心ト允心トヒトツニナルトコロヲサシテ  
トノ給フ行者ノ方ニ如来廻向ノ信心ヲウルユヘニ  
信心獲得ノ行者トハイフナリ

第十通

夫當流親鸞聖人ノス、ノマシマストコロノ一義ノ  
コ、ロトイフハ等○コノ他カノ信心トイフユトヲ

クハレクシラスハ等 問他カノ信心ヲ委シクシル  
ハ知解学解ナレハ他宗他門ノ人モ知ヘシ彼等モ委  
クシラハ往生スヘキヤ答他カ信心ノヤウヲ委ク知  
タリ氏知解学解ノ理リシル分齊何ソ往生ノ大事ヲ  
成スル理アラシヤ今ハ佛願ノ生起本末ヲ聞得テ他  
カ信心ノ趣ヲクワシク知スハ何ソ信心ヲ生センユ  
ヘ次ノ御言ニサレハソノ他カノ信心ノスカタヲ存  
知シテ眞實報土ノ往生ヲトケントオモフニツイテ  
モ等トノ給フ下ノ御言ヨリ見レハ不審ナカルヘシ  
○行者ノワロキコ、ロヲ如来ノヨキ御コ、ロト至  
一躰ニナルトイヘルハコノコ、ロナリ 行者ノワ



ロキ心ト云ハ貪瞋煩惱自力疑心等也如来ノヨキ御  
 コ、ロト云ハ即大悲心ナリ行者ノワロキ心ヲ如来  
 ノ大悲心ト轉スルハ同シモノニナシ給フ也○佛心  
 ト凡心ト一體ニナルトイヘルハコノコ、ロナリト  
 ハイヘルハトアレハコノ語フルキ詞ニアルヲ接給  
 フヤウニ三ユ最要鈔願々鈔二義アリテ全語ハナシ  
 意ヲ取テ遊ハシタル歟○スミヤカニ真實ノ報土ヘ  
 ラクリタマフナリ コレ一益法門ノ徒ハ西方ヘ往  
 生スルト云ヲ嫌テコノ娑婆カ直ニ淨土大涅槃ノ妙  
 果ナリト執ス今ソレニ簡テ真實ノ報土ヘヲクリタ  
 マフナリトノ給フ往生要集中本廿四左二經ヲ引テ令上大願船

送著西方ト云意也○晝夜朝暮ニハタ、祢名念佛ハ  
 カリヲトナヘテ等 吾祖ノ唯能常祢如来号應報大  
 悲弘誓恩トノ給フ意也○ハカリハ唯ノ字ノ意也○  
 當流ニタツルトコロノ一念發起乃コレナリトコ、  
 ロウハシ一念發起平生業成ノ夏第一帖ノ二通目  
 ノ如シ上ノ不思議ノ誓願カソトフカク信シテ等ノ  
 文ニ具ニ一念發起平生業成ノ義アラハ小雅タリ○ナ  
 ニノ功劳モイラス 幼勞ノ字ハ詩ノ蓼莪ニ出レト  
 モ今ハ功劳ノ字ナレハ詩經ニヨルニ非ス法華玄賛  
 二三曰正言室羅摩拏或室摩那拏此云功劳謂修道有  
 多功劳也文應師音義七左及翻詠名義集一評並ニ此



言功勞ト云見ツヘシ○佛ニナリ極衆ニ往生スルコトモ  
下モナラヤスシ 佛ニナリ極衆ニ往生スルコトモ  
トハ淨土ノ大涅槃ノ妙果ヲ佛ニナリトノ給フ往生  
即成佛ノ義也秘事ノ徒ハ娑婆ニ在テ成佛スコレヲ  
往生ト名クルトモ云ヘシ上ノ第一帖ノ四通目ニ定  
聚ハ此土ノ益滅度ハ彼土ノ益ト明判シ給ヒ又帖外  
ノ御文ニ信心ヲウルトキハヤホトケニナリサトリ  
ヲヒラキタルヨシウケタマハリオヨビ候言語道断  
クセコトニテ候ソレハアサマシクコソハサフラヘ  
聖人ノ御一流ニハ定聚滅度トタテマシクテ雜行ヲ  
ステ、一心ニ弥陀ニ皈シタテマツルトキ攝取不捨

ノ利益ニアツカリ正定聚ノクラ井ニサタノタマフ  
コレヲ平生業成トナツクサテ今生ノ縁ツキテイノ  
チオハラシキサトリヲヒラクヘキモノナリコレヲ  
スナハチ大涅槃ヲサトルトモ滅度ニイタルトモ申  
スナリ<sup>文</sup>此蓮如上人ノ御言明カナルコト日月ヲ揭  
テ行カ如シ誰カ惑フ者アラン○夫一切ノ神モ仏ト  
申モ<sup>乃</sup>至<sup>乃</sup>ヲ口カニオモフヘカラサルモノナリ 阿弥  
陀ノ本願タル念仏ノ信心ヲ取ラ令ン為ノ方便ニ諸  
仏トアラハレ諸神ト示現シ給フ教主釈尊出世ノ本  
意念仏ノ信心ヲ取シモンタノ也故ニ欲極群萌惠以  
眞實之利ト説キ我見是利故説此言ト説ク眞實之利



ト名ケ是利ト云モノハ弥陀本願ノ大利ナリ故ニ見  
 敬得大慶則我善親友トシタシミ給フヨリテ般舟讚初布  
 曰釈迦如來實是慈悲父母種々方便發起我等无上信  
 心コレニヨルニ教主釈尊コノ他カノ信心ヒトツラ  
 得シツン為ニ現ハレ給フコト明ケシ其外一切ノ諸  
 仏モミナコノ信心ヲ取シノンタメニ顯ハレ給フ故  
 ニ弥陀經ニ六方恒沙ノ諸仏念仏ノ者ヲ証誠護念シ  
 給フ讚ニ十方恒沙ノ諸仏ハ極難信ノ、リヲトキ五  
 濁惡世ノタメニトテ証誠護念セシメタリトノ給フ  
 コノ意ナリ一切ノ諸仏ハ本師弥陀ノ分身遣化ナレ  
 ハ何ソ他カノ信心ヲトラシメシメニ現ハレ給フカ

タチニアラサラニヤ觀音勢至ノ二大士ハ弥陀ノ悲  
 智ノ二門助阿弥陀仏普化一切ノ菩薩ニシテ觀世音  
 菩薩大勢至菩薩為其勝友ト説ク念仏行者ニ隨逐影  
 護シ給ヒテ他カノ眞實信心ヲ守リ給フ諸仏ハ弥陀  
 ノ分身ニシテ法王法將ナリ一切ノ菩薩ハソノ法臣  
 ナリ亦是如來分身遣化ノ形也況ンヤ諸神ハ往古ノ  
 如來法身ノ薩埵ナレハミナ本地ノ本意ニ順セサラ  
 ニヤ故ニ諸神本懷集未世六布曰本地ノ仏菩薩ハコトク弥  
 陀一仏ノ智慧ナレハ弥陀ノ名号ヲ稱スルニ十方三  
 世ノ諸仏オノツカラ念セラレタマフ諸仏菩薩念セ  
 ラル、イハレアレハソノ垂迹タル諸神ミナマ夕信



セラル、コトソノ理必然ナリ文今本地ノ仏菩薩弥  
陀ノ分身ニシテ一念南无阿弥陀仏ト皈命スルウチ  
ニミナコモレハ垂迹ノ諸神モミナコモレルコト理  
在絶言ナリユヘニ帖外ノ御文日マタ一切ノ月カケ  
ハモトヒトツノ月ノカケナリ一ツ月ノカケカ一切ノ  
トコロニカケヲウツスナリコノコ、ロヲモテコ、  
ロウヘシサレハ阿弥陀一仏ヲタノメハ一切ノモロ  
クノホトケ一切ノモロクノカミヲ一度ニタノムニ  
アタルナリコレニヨリテ阿弥陀一佛ヲタノメハ一  
切ノカミモホトケモヨロコヒマモリタマヘリ文是  
ラノ御詞ヲモテ心ウヘシヲロカニトハ疎ノ字ナリ

○ユメク万葉ニハ慎ノ字忌ノ字ヲユメト訓ス源氏  
胡蝶ノ卷ニモ書ル礼讀廿六右詞ナリ大經ニ宜各勤精進努力自  
求之ト説キ善導モ努力翻迷還本家ト釈ス古來努力  
ノ字ユメクト訓シテ廢略ナルヲ制シ精進ニ勤テ忽  
略スルコト莫レト也コノ意ナレハ慎ノ字モ通ス

第十一通

夫當流親鸞聖人ノ勸化ノヲモムキ等 此一通世ニ  
五重ノ御文ト云祖師勸化ノヲモムキ不同ナルニ非  
ス牛ハ水ヲ飲テ乳トシ蛇ハ水ヲ飲テ毒トス傳フル  
者ノ過ニシテ祖師勸化ノ不同ナルニ非ス○ソノス  
ムルコトハニイハク十劫正覺ノハシメヨリ至信



心ノスカタナリトイヘリ 此十劫秘事ヲ挙テ破シ  
 給フ事五帖ノ中三処ニ出ツ本ト西山家ノ義ヲ心工  
 誤リテ膚受濫学ノ徒傳ヘ弘マリシカ越前ノ國ニ流  
 行スト見ユコレ誰カ首創スルコトヲ詳ニセス第一  
 帖ニハワレラカ往生ヲサタメタマヘル弥陀ノ御恩  
 ヲワスルヌカ信心ソトイヘリトイヒ今ハタ、ワス  
 レヌカスナハキ信心ノスカタナリトイヘリトアリ  
 テ弥陀ノ御恩ノ言ナシコレソノ異ナルノミ具ニ第  
 一帖ノ十三通目ニ辨明スルカ如レコノ謬解タ、第  
 十八願八十劫已前ニ成就スルコトヲ知テソノ事ヲ  
 忘レヌカ信心ノ相ナリト云ハタ、第十八願ノ理リ

ヲ知テ忘レサルノミニシテ至心信樂欲生我國乃至  
 十念一ツモナシ故ニ次下ニコレヲ破シ給フ空公ノ  
 歡喜鈔曰但シ彼ハタ、知ルハカリニテ往生ハ既ニ  
 シテケリト云テ今日飯命スル心ナシ解會ノ分齊ナ  
 リ今教ヘ給ヘル正義ハ他カヲ知テ而モ飯命ス信行  
 此ニ具足ス彼ノ謬リハ阿弥陀仏ノ四字ノイハレヲ  
 ハ知ルニ似タレトモ南无ノ二字ノ理リヲ忘レタリ  
 今此正義ト云ハ六字ノイハレヲヨクク心ウルヲ信  
 心ヲトルトハ云ナリ六字ノ中ニ特ニ南无ノ二字肝  
 要ナリ南无アレハ即チ阿弥陀仏アリ能信ハ必ス所  
 信ヲ离レサルカ故ニ眞實信心必具名号故ニ蓮如<sub>未考所出</sub>上



人ノ歌ニ南无トイフソノニモシニ花咲テ阿弥陀ホ  
トケニ實ハナリニケリト詠シ給フ若飯命ノ願无ニ  
ハ爭カ阿弥陀仏ノ行ヲ得ンヤ飯命モスシテ仏心ト  
一味セルユト文義共ニコレナキヲヤユレ先輩ノ指  
南ナリ候セテ此ニ録シテ檢尋ニ便リスト云○又ア  
ルヒトノユトハニイワクタトヒ弥陀ニ飯命ストイ  
フトモ至乃ソレラニヲイテハ善知識ハカリヲタノム  
ヘシト云云ノ謬解ステニ往昔ヨリアリシ事ト見エ  
テ改邪鈔末十八左曰仏身仏智ヲ本体トオカスシテタ、チニ  
凡形ノ知識ヲサヘテ如来ノ色相ト眼見セヨトス  
、ムランコト聖教ノ指説ヲハナレ祖師ノ口傳ニソ

ムケリ本尊至乃知識ノホカハ別ノ仏ナシトイフコト  
智者ニワラハレ愚者ヲマヨハスヘキイヒコレニア  
リアサマシク文此餘流ノ傳レルニヤ帖外ノ文明十  
一年十一月月ノ御文ニモ然則此上ニハ知識飯命ナ  
ント云事モ更ニ以テアルヘカラスチカコ口參河ノ  
國ヨリ手作リニ云出シタル事ナリ相傳々々コレラ  
ノ儀ヲ信用スヘカラサルモノナリトアルモコノ類  
ト見ユタリ今ノ世ニモ秘事ヲ傳ル徒ハ本山本所ノ  
善智識ト云ハ一宗オモテムキノ招牌ナリマコトニ  
コノ智識コソ宗ノ淵源ヲ尽シ秘奥ヲ極メタリトテ  
コレヲ真ノ善智識ト仰ク類アリ嗚呼痛傷スヘキニ



堪タリ○コレモウツクレク當流ノ信心ヲエタル人  
ナリトキコエタリコレ能信ノ人ノ崇仰ノ心ニ同  
シテ言和カニ破シ給フ次ニ道理ヲ述ヘ終テハオホ  
キナルアヤマリ也ト訶棄シ給ヘリ○ソモく善知識  
ノ能トイフハ等 妙文句二之一四知只是識或言聞  
名為知見形為識見形為知見心為識文愚禿鈔二十九右二知識  
ニ種々アル事ヲ歎シ給フ能トハ功能德能也○コレ  
ニヨリテ五重ノ義ヲタテタリ乃往生ハカナフヘカ  
ラストミエタリ 空公ノ歡喜鈔三十五右曰五重ノ義ハ淨土  
見聞集ニ談スレモソノ各ノ作者ヲ知未考ラス五重大意  
鈔ニモ出レトモ作者モ詳ナラス更ニ聖道淨土名目

ト題セリ一卷アリ正ク存覺上人ノ撰ナリト山科連  
署未考記ニミエタリカノ名目ノ中ニコノ五重ヲ列子  
給フ今ハ是カノ名目ニヨリ給フ歎トイヘリ鎮西ノ  
一家ニ五重相傳ノ名言アリ事大ニ同シカラサレト  
モ五重ト名ルハ同シ今五重堅ニ次第スルノ義ニシ  
テ猶シ五段ト言ハンカ如シイマハ宿善々智識光明  
信心名号ト列ヌモシ聞其名号信心歡喜就立行信ノ  
次第ニヨラハ光明名号信心ト列ヌヘシ然ル時禮讀四右ハ以  
光明名号攝化十方但使信心求念ノ歎ノ次第ニモ応  
ス又金剛堅固ノ信心ノサタマルトキラマチエテソ  
弥陀ノ心光攝護シテトアレハ心光攝護ニ約セハ信



心ノ後ニ光明ヲ列ヌヘシ又發信称名光攝護トノ給  
 フニヨルトモ信心名号光明本ト次第スヘシ又元祖ノ  
 攝取不捨ノ光益ハ念々稱名ノ徳ヲサツク十六又十九  
 ルニヨレハ光明ノ後ニ名号ヲ列ヌヘシ攝化十方ノ  
 光明名号ハ信心ヲ獲得スル因縁ナレハ信心ノ前ニ  
 アリ心光攝取ト衆生ノ能行ノ名号ハ信ノ後ニアリ  
 コレ所望不同ナルノミ今コノ次第ハマツ宿善々  
 知識ヲ列ルハ改邪本十六鈔曰カツハマタ宿善アル攝ハ正  
 法ヲノフル善知識ニシタレムヘキニヨリテマ子カ  
 サレトモヒトヲマヨハスマシキ法灯ニハカナラス  
 ムツツヘキイハレナリ蓮如上人モ次下ノ文ニ宿善

開發シテ善知識ニアハスハ往生ハカナフヘカラサ  
 ルナリトノ給フ故ニマツ一ニハ宿善二ニハ善知識  
 ト列子タリ三ニハ光明四ニハ信心ト列ルハ无礙光  
 ノ利益ヨリ威徳廣大ノ信ヲウルナリコレ攝化十方  
 ノ光明ナリ經ニハ聞其名号信心歡喜ト説テタ、名  
 号ノ一法ヲ聞テ信心ヲ得ト説ク善導ハ光明名号攝  
 化十方但使信心求念ト釈スルハ光明名号ハ名義ノ  
 ニニシテ相离レサレハナリ今ニハ善知識三ニハ  
 光明ト列ルハ善知識ニ開悟セラル、時始テ无尋光  
 ノ利益アルニアラス光明ハ曠劫多生テラシメクミ  
 給フ然ルニコレ善知識ハ外縁ニシテ顯ナリ无尋光



ノ利益ハコレ具ナリ所謂法在一心説必次第也五二  
ハ名号トハ是信心マコトニエテ称ウル称名ナリ四  
ニハ信心五ニハ名号ト列ルハ信卷ニ眞實信心必具  
名号ト叙シ給フニ同シ今名号ト云テ称名トイハサ  
ルヲ以テ人多ク遲慮ス覺如上人ノ本願鈔ニ信卷ノ  
文ヲ叙シテ眞實ノ信心ニハカナラス名号ヲ具スト  
イフハ本願ノヲコリヲ善知識ノクチヨリキ、ウル  
トキ弥陀ノ心光ニ攝取セラレタテマツリヌレハ攝  
取ノチカラニテ名号ヲノツカラトナヘラル、ナリ  
コレスナハチ仏恩報謝ノツトノナリコレニヨルニ  
必具名号ヲ称名ノコト、叙スルコト明ケシコノ五

重ノ義ハ平生ノ機ニ就テ立給フ然ルニ人或ハ云臨  
終一刹那ニ逼テ信心決得シ口称ニ及ハサルモノハ  
第四重マテ具シテ第五重ノ名号ハ具セスコノ五重  
ノ義成就セスハ往生ハカナフヘカラサルニ非スヤ  
ト云今謂歎異鈔曰弥陀ノ誓願不思議ニタスケラレ  
マイラセテ往生ヲハトクルナリト信シテ念仏マフ  
サントオモヒタツコ、口ノオコルトキスナハチ攝  
取不捨ノ利益ニアツケシメタマフナリ文是ニヨル  
ニ臨終ニ逼テ口称カナハサルモ念仏往生トキ、テ  
念仏申サント思立心ノ起ルトキ即チ攝取不捨ノ益  
ニアツカル何ソ第五重ノ名号ヲ具セス往生カナフ



ヘカラストイハンヤ思ツヘシ○サレハ善知識トイ  
 フハ阿弥陀仏ニ皈命セヨトイヘルツカヒナリ 法  
 華法師科註四三右曰當知是人則如來使如來所遣行如來事 文  
 妙察八之一左五如王使傳命若赴主心故得名使得所遣  
 名文傳教後古今集教部大師ノ歌ニ此法ヲ夕、一コトモトク人ハ  
 ヨモノ仏ツカヒナラスヤトヨノル是ナリ末七右改邪鈔  
 曰夕、實語ヲツタヘテ口授シ仏智ヲアラハシテ決  
 得セシムル恩徳ハ生身ノ如來ニモアヒカハラズ木  
 像モノイハス經典クチナケレハツタヘキカシムル  
 トコロノ恩徳ヲ耳ニ夕クハヘン行者ハ謝徳ノオモ  
 ビヲモハラニシテ如來ノ代官トアフビテアカムヘ

キニテコソアレ 文 コレモ如來ノ使ト云意ナリ

第十二通

夫人間ノ五十年ヲカンカヘミルニ等 此一通ハ坊  
 主分へ限テ御教誠ト見ユ四王天ハ欲界六天ノ初持  
 國增長多聞廣目ノ四天王須弥山ノ半腹ニ住ス地居  
 ノ天ナリ等活地獄ハ八熱五ノ十六右八寒孤獨ノ地獄アル中八  
 熱地獄ノ初ナリ法苑珠林三左四ニ阿毘曇論ヲ引テ曰  
 如人間五十歳為四天王天一日一夜即用此日月歳數  
 四天王天壽命五百歳計人間日月九百万歳即是等活  
 地獄一日一夜如是日月歳數等活地獄壽五百歳ソノ  
 外諸經十一ノ十六左末考及俱舍婆沙等ノ諸論ニナコレニ同シ然ルニ



今コノ四王天ノ五十年ヲモテ等活地獄ノ一日一夜  
 トスルナリトノ給フハ彼ノ諸經論ノ説ト相違ス故  
 二人或ハ云コレ違如上人暗記ノ失ナリト或カ鈔曰  
 有人ノ説ニ正量壽命經ニ御文ノ如ク五十年ノ説ア  
 リト未タソノ經本ヲ見ス或ハ四王天ノ五十年ノ十  
 ノ字百ノ字寫誤歟トイヘリ今謂今ノ御文ノ皓撰正  
 法念經ニ出タリ彼經第六右二曰命終生于活地獄中如  
 此人中若五十年彼四王天為一日夜彼數亦尔三十日  
 夜以為一月亦十二月以為一歲彼四王天若五十年活  
 大地獄為一日夜以惡業時有下中上活地獄命亦下中  
 上有中間死隨業種子多少輕重活地獄中或一處受或

二處受或三處受或四處受或五處受或六處受如是乃  
 至十六處受乃至惡業未壞未瀾業氣未盡彼地獄中五  
 百年命依天年數不依人中文是ニヨルニ今ノ御文ハ  
 コノ經セツニヨル下品ノ惡業ニヨリテ四王天ノ五  
 十年ヲ以テ等活地獄ノ一日一夜トスモシ上品ノ惡  
 業ニヨリテ十六ノ別處ヲフル者ハ四王天ノ五百歲  
 ヲモテ等活地獄ノ一日一夜トシテカノ獄ノ壽五百  
 歲ナリ諸經論ノ所説五百歲ト云ハ上品ノ惡業重受  
 ノ相ニ就テ説クノミ近世人コノ正法念經ノ文ニヨ  
 ルコトヲ知リテソノ惡業ノ下中上アルニ就テ受報  
 ニ長短アルコトヲ死セス夕、經々ノ異説ナリト謂



ヘルハ遺憾ナル哉○コレニヨリテミトノ地獄  
 ニオチテ苦ヲウケンコトヲハナニトモオモハス等  
 コレニヨリテノ語上ニ獄苦ノ久長ナル戦々慄々  
 シテ恐レツヘキ事ヲ述テ現今不法懈怠ノ者ヲ誠ノ  
 テシツカニ思案ヲメクラスヘクモノナリトノ給フ  
 蓮如上入ノ痛傷シ給フハコレヲ因本トス故ニコレ  
 ニヨリテトノ給フ奥昏ニ于時文明第六六月中ノ二  
 日アマリノ炎天ノアツサニコレヲ筆ニマカセテカ  
 キシルシヲハリヌトアレハ炎暑ノ堪カタサニマン  
 テヤ等活地獄ノ苦ミハト思召シ合サレテ遊ハシタ  
 リト見エタリ○夕、朝夕ハヒマヲ子ラヒ乃シツカ  
至

ニ思案ヲメクラスヘキモノナリ ヒマヲ子ラヒト  
 ハ詩語ナトニ偷讀用十五ノ百十左問ト云ト同シ觀觀ノ字廣韻ニ希望  
訪本不得 字引之  
 也正韻欲得也ト註シテ子ラフコト也○マクラフト  
 モトシテ子フリフセランコト等 帑外ノ文明五年  
 五月ノ御文ニワレラモステニ无明ノヤミニ子フリ  
 シツミ井タル身ニテ候カタマク五戒ノ功力ニヨリテ  
 イマ南浮ノ生ヲウケテアヒカタキ仏法ニアヘリサ  
 レハコノ夕ヒ信心決定スルム子ナクハ三途ノ旧里  
 ニカヘランコトヲカナシミラモハ、ナトカ子フリ  
 フコノミ候ヘキヤサレハ觀經ニハ唯除曉時恒憶此  
 事トトキ善導ハ煩惱源无底生死海无辺トモイフ何



衆睡眠トモ判セリコノ文ノコ、ロハ煩惱ハフガク  
シテソコナシ生死ノ海ハホトリナキ身ノイカニカ  
睡眠ヲコノマンヤトイヘリマタ觀經ニモタ、子フ  
リヲノソキテコノコトヲオモヘト、カレタリ經釈  
トモニ子フリヲコノムヘカラストキコヘタリ文仏  
乘般涅槃略說教誡經亦名曰无以睡眠因緣令一生  
空過无所得也當念无常之火燒諸世間早求自度勿睡  
眠也諸煩惱賊常伺殺人甚於怨家安可睡眠文睡眠ノ  
夏第一帖ノ六通目ノ如シ○コノユヘニ今日今時ヨ  
リシテ等 今日今時ヨリシテタ、今マテノ不法懈  
急ヲ改ヨト也不法トハ仏法ニ心ヲ留メサル也懈怠

ト云ハ随煩惱ノ一ニシテ善法ヲ等閑ニシ惡法ヲ勤策  
スルナリ○コレマタ自行化他ノ道理ニカナヘリト  
オモフヘキモノナリ 御一代聞四十右曰信モナクテ人  
ニ信ヲトラレヨくと申スハ我ハ物ヲモタスシテ人  
ニモノヲトラスヘキトイフ心ナリ人兼引アルヘカ  
ラス文サレハマツ自身信心ヲ決定シテ人ヲ勸ムヘ  
シコレ自行化他ノ道理ナリ

第十三通

夫當流ニサタムルトコロノオキテヲヨクマモルト  
イフハ等 此一通ノ中ニ下ノ當流ノ安心ノヲモム  
キラクハシタシラントオモハンヒト等ノ御詞ハ第



五帖ノ十二通目ノ御文ト同シ唯文言少異ナルノ  
 ○我宗ノ名望ノヤウニオモヒテ 李良薦蒙求表曰  
 名望夙著文名ハ名譽望人望字貴為人所仰曰望ト字註ス  
 コレヲ我宗ノホマレ面目トシ手柄ノヤウニ思フ也  
 ○言語同断ノ次第第一帖ノ七通ノ中ノ如シ○サラ  
 ニ聖人ノサタメマシクタル御意ニフカクアヒソム  
 ケリ至乃至マノ御コトハラモテヨククコ、ロウヘシ  
 他ノ聖道門ノ修行者ト虫トモ狂ヲ显シ愚ヲ現シテ  
 菩提心ヲ棄ハレシトタシナムハ真ノ仏法者ノツ子  
 ナリマシテ吾祖ノ内ニ宏智ノ徳ヲ備フト虫トモ名  
 ヲ碩才道人ノ聞ニテラ銜ハンコトヲ恐レ外夕、至愚ノ

相ヲ現シテ身ヲ田夫野叟ノ類ニ侔シフセント欲シ  
 テ自ラ愚禿ト称シ給フ聖人ノ御門弟トシテモシハ  
 善人モシハ後世者モシハ仏法者ト見ユルヤウニフ  
 ルマハンヤ今コ、ニ引給フ御言ハ改邪鈔ニ出テ、  
 コノ帖第二通目ノ中ニ援カ如シカノ本八上鈔ノ具文曰ツ  
 子ノ御持言ニハワレハコレ賀古ノ教信沙弥ノ定ナ  
 リト云云シカレハ云云フ專修念仏停廢ノトキノ左迂ノ  
 勅宣ニヨセマシクテ御位署ニ愚禿ノ字ヲノセラ  
 ルコレスナハチ僧ニアラス俗ニアラサル儀ヲ表シ  
 テ教信沙弥ノユトクナルヘシト云云コレニヨリテ夕  
 トヒ牛盜トハイハルトモ、シハ善人モシハ後世者



モシハ仏法者トミユルヤウニ振舞ヘカラストオホ  
 セアリ文御一代六十五聞書ニ蓮如上人无紋ノ物ヲキルユ  
 トヲ殊勝サウニミユルト仰アリテ御キラヒ候又ス  
 ミノ黒キ衣ヲ御キラヒ候テ衣紋タ、シキ殊勝ノ御  
 僧ノ御出候ト仰アリシコトヲ載ラレタルモ此意ナ  
 リ斯ニ當流ノスカタヲミユヘカラストノ給フハモ  
 シハ善人モシハ後世者仏法者ト見ユルヤウニ振舞  
 ヘカラストナリ○牛ヲヌスミタル人トハイハルト  
 モトハ古来ニ説アリ一者雜寶藏經第二左ニ罽賓国  
 ニ离越阿羅漢アリ山中ニ在テ坐禅ス一人ノ牛ヲ失  
 テ蹤跡ヲ追逐テ道ソノ処ニ至ル時ニ离越草ヲ煮テ

法衣ヲ染ム自然ニ変シテ牛皮トナリ煮タルソノ草  
 ノ汁変シテ血トナリ煮タル漆草ハ変シテ牛ノ肉ト  
 ナリ持トコロノ鉢盂ハ変シテ牛ノ頭トナル牛主見  
 已テ即捉テ執縛シツレテ王ニ訟ヘ遂ニ禁獄セラル  
 离越ハソノ前業ナルコトヲ知テソレ牛ヲ盗マスト  
 モイハス獄監ノ為ニ馬ヲ食ヒ糞ヲ除テ十二年ヲ過  
 クソノ弟子羅漢果ヲウルモノ五百人アリソノ師ノ  
 所在ヲ知ラス業縁尽シト欲シテ一ノ弟子師ノ獄中  
 ニアルヲ見ル具ニ王ニ訴フ王人ヲ遣ハシ獄中ヲ見  
 ルニ一人威色憔悴シ鬚髮極長ナルヲ見ルノミソノ  
 人知ルヘカラスト弟子王ニ請テ諸有ノ道人悉ク皆獄



中ヲ出ス、齋越獄中ニ在テ鬚髮自ラ落テ袈裟身ニ著ク、虚空ニ踊テ十八變ヲナス。王五体投地シテ懺悔ス。下來シテ懺悔ヲウケテ、過去ニ我牛主トナリテ牛ヲ失ヒ碎支仏ノ独リ坐禪スルヲ誣謗スルコト一日一夜ナリキ。今ソノ餘殃ナリト説ケリト、彼ノ經ニ説カ如シ牛ヲ盜タリト呼レテモ、我ハ是聖者ナリ、毋漢ナリトイハス。今モ牛盜人ト无実ノ名ヲヨハルトモ、後世者仏法者ノ相ヲアラハスヘカラストナリ。二者先輩ノ叢林集ハ中ナニ曰、古老ノ物語云、西行法師東関分衛ノ時、奥州ノアル所名失地ニ宿ヲ求ムルニ、主ヤトヲカサ、リケレハ、无是非ソノ擔ノ辺、柴水ツミタルアヒタ

ニマキレ卧シテ一夜ヲ明ス、夏アリジニソノ夜更テ盜人來テ其家ノ牛ヲ盜テ出ヌ。西行ハソノ私語ヲモキ、往方ヲモミテケリ、夜アケテ牛ナカリケレハ、主驚テ思フヤウ、昨暮ヤトヲ求カ子タル法師コソ、覺束ナケレトテ、タツ子出シテ法師ヲ捕ヘテ牛又スミタルヤウヲシルニヤト問ケルニ、曾テシラスト陳セラレシカハ、擔端ニ在テヨモシラヌ。夏ハアラシイカサマコノ法師ソヌスヒトノ同族ナラノシカラスハ、何ソイハサルイハ、許ヘシ真ノ修行者ナラハアリノ、修ニ語ルヘシトセソセタケ、レモ牛盜人トハ云レテモ、我コソ見タレトハイハサリケルサテコソ、レ



ヨトテ打擲ニ及ナントスルニ迷惑シテワレハコレ  
西行ヨ許セクトナノラレケレハ西行ノ修行ソノキ  
コエカクレナシ真ノ西行ナラハ試ル莫アリ十二支  
ヲ一首ニヨミナハ西行ナルヘシト田舎ナレ尺心ア  
ル主ニテ難シカケタリケレハ法師詠テ其難ヲ遁レ  
テケリ午未申酉戌ヨハヤク亥子丑寅又サヘ卯キナ  
辰巳ニトコノ古老ノ説何ノ各ニ出ルヲ聞ス上ノ  
兩説何レニカ適従スヘキ取捨情ニ任スノミスヘテ  
人ヲ惡罵スルノ極盜人ト云ヨリ甚シキハナシ特ニ  
資財雜具ヲ盜ヨリモ畜羶スル大物ノ牛ヲ又スムハ  
盜賊人ノ極ナリタト故莫ニヨラス尺牛盜人トイ

ハルトモト云モ妨ナカルヘシ○ツキニ當流ノ安心  
ノヲモムキヲクハシクシラントオモハンビトハ等  
已下此一通ノ終マテ第五帖ノ十二通目ト同シタ  
タ二三処ニ文ノ具略アルノミ今ノ一通ニハ文明六  
年七月三日各之ト歲月ヲ記シ五帖目ニハ歲月ヲ記  
サス今ハ初ニ當流ノ掟ヲ示シ次ニ安心ノ趣ヲ教エ  
給フ後ニソノ當流ノ掟ヲ示ス文言ヲ略シテ安心ノ  
趣キハカリヲ別ニ一通トシテ下サレタリト見ユ吾  
祖ノ和讃ニモ弥陀ノ名号トナヘツ、ノ讃浄土和讃  
ノ卷首ニアリテ正像末和讃ニ總ニ二字異ナルノミ  
ニシテ是ヲ列子五濁惡世ノ衆生ノト云一首高僧和



讀ノ終ニ載タルヲ終ニ一字異ナルノミニシテ正像  
未和讀ニ出シ給フ如シ特ニ肝要ノ安心ニヘニ兩處  
ニ編入シ給フナルヘシ○アナカチニ智慧才覚モイ  
ラス男女貴賤モイラス 五帖目ニハ男女貴賤モイ  
ラスノ一句ナシ知惠才覚ハ一人ノ上ニ就テ云智惠  
ハ本心ノ正智ナリ才覚ハ聰明才藝アルヲ云付法藏  
傳五<sup>十五</sup>ニモ少聰哲才覚超世ト云是ナリイラスノ言  
ハ不論不簡ト云カ如シ此帖第七通ニ兵スルカ如シ  
男女貴賤モイラストハ多人ノ上ニ就テ機ヲ簡ハサ  
ル莫ヲ示ス○我身ハツミフカキアサマシキモノナ  
リトオモヒトリテ等 コレ初ニ機ヲ信シ次ニ法ヲ

信ス二種ノ深信ナリ元祖ノ往生大要鈔ニ始ニハ我  
身ノ程ヲ信シ後ニハ仏ノ願ヲ信スル也但シ後ノ信  
心ヲ決定セシメンカ為ニ始ノ信心ヲハアクルナル  
ト具ニ示シ給フ見ツヘシ散善<sup>四布</sup>美ニハ四十八願攝受  
衆生ト釈シ今本願成就ノ仏体ニ就テ阿弥陀如來ハ  
カリナリトシリテト<sup>ウ</sup>給フ也○コノ阿弥陀如來ノ  
御袖ニヒシトスカリマイラスルオモヒヲナシテ等  
一念无疑ニ已ヲ忘レテヒシトタノム信相ヲ御袖  
ニスカリマイラスルオモヒヲナシテトノタマフ○ヒ  
レト、云ハ必至ノ字也史記九十二<sup>左</sup>淮陰候韓信傳  
曰孟賁之狐疑不如庸夫之必至也勇士ノ孟賁モ疑テ



決セサレハ勇カアラハレス无カノ庸夫モ心ヲ使ス  
 レハ孟賁ニ勝ル、ハ必至ノ勢ナリ又五雜俎五十三布ニ晋ノ  
 時暨陽ノ任谷孕テ一蛇子ヲ出ス宋ノ宣和六年青葉  
 ヲ賣ル男子孕テ一女子ヲ生スルコトヲ述テ次ノ文  
 曰國朝周文襄在姑蘇日有報男子生子者公不答但目  
 諸門子曰汝輩慎之近來男色甚於女其必至之勢也コ  
 レアルマシキコトノアルハ必至ノ勢也ト云○スカ  
 リマイラスル未考繒ノ字第一帖ノ三通目ノ如シ古歌ニ  
 モ摸ノ葉ニスカル垂氷ノ春風ニウチトケテナク谷  
 ノウクヒストヨメリ○コノ阿弥陀如來ハフカクヨ  
 ロコヒマシクテ等 問仏果ノ境界何ソ憂表アラシ

謂ク阿弥陀如來ノ本願ニカナフ仏アニ喜ヒマシマ  
 サ、ランヤ韋提ノ致請歡迎ノ本心ニカナヘハ余時  
 世尊即便微笑シ給フ大經ニハ忘時无量尊動容發欣  
 笑口出无数光遍照十方國ト説クコレ欣笑ハ仏ノ喜  
 ヒマシマス相也○ソノ御身ヨリ八万四千ノオホキ  
 ナル光明ヲハナチテ等トハ第一帖ノ七通目ニ旣ス  
 ルカ如シ○經ニハマサニ光明遍照至乃トカレタリト  
 コ、ロウヘシ 五帖目ノ文ニハマサニノ三字ナシ  
 海東講師曰コノ光明遍照等ノ十六字即第十八願成  
 就ノ相也梵ニハ毘盧遮那此ニハ光明遍照ト云ト云  
 即設我得仏ノ成就ナリ十方世界トハ本願ノ十方衆



生ノ成就ナリ念仏衆生トハ即本願ノ至心信樂欲生  
我國乃至十念ノ成就ノ相ナリ攝取不捨トハ即不取  
正覺ノ成就ノ相ナリ善導ノ礼讚六右ニ唯觀念仏衆生攝  
取不捨故名阿弥陀ト釈スル是ナリ然ニコノ念仏衆  
生攝取ノ益ヲ第九ノ真身觀ノ中ニ説クコトハ第一  
帖ノ七通目ニ縷述スミツヘシ○コレ光明ノ縁ニア  
ヒタテマツラスハ至乃サラニモテアルヘカラサルモ  
ノナリ 和讃ニハ无尋光ノ利益ヨリ威徳廣大ノ信ヲ  
エテトノタマフ口傳鈔上右ニハ十方世界ノ照曜スル无  
尋光遍照ノ明朗ナルニテラサレテ无明沈没ノ煩惑  
漸々ニトラケテ涅槃ノ真因タル信心ノ根芽ワツカ

ニキサストキ報土得生ノ定聚ノクヲ井ニ住ス、ナ  
ハチコノクヲ井ヲ光明遍照十方世界念仏衆生攝取  
不捨トヲトケリ文今ハ此口傳鈔ノ意ニヨル○无明  
業障ノオソロシキ病トハ无明ハ煩惱障ノ根本ヲ奉テ  
余ヲ據ス今煩惱障及業障ヲ奉クコレヲ病ニ喻ル  
ハ維性王ノ若ノ問疾品曰維六ノ詰言徒癡有愛則我病生以一  
切衆生病是故我病若一切衆生得不病者則我病滅文  
宝積經四十八初一切衆生常是病者恒為三種熱惱所  
燒惱故舍利子何等名為三種熱惱所謂貪欲熱惱瞋恚  
熱惱愚癡熱惱大選未集未ニ如彼无明淵源之病非中道  
府藏之藥即不能治トイ信文類未ニ未謗法五逆闍提



ヲ難化三機難治三病トノ給フコレミナ无明業障ヲ  
病ニ喩ルナリ持名鈔本十三右ニモ如来ハ良函ノコトニ機ヲ  
カ、ミテ法ヲアタヘタマフ上根ノ機ハ病アサキ人  
ノ如ク末世ノ凡夫ハ重病ノ人ノ如シ極惡最下ノ機  
ノ爲ニ極善最上ノ法ヲ説ク五逆ハ重病ノ淵源ナリ  
念仏ハ靈藥ノ府藏ナルコトヲ叙ス見ツヘシ○コノ  
光明ノ縁ニモヨホサレテ宿善ノ機アリテ等 此御  
言ニ解アリ一者光明照触ノ縁ニヨリテ宿善開發シ  
テ他カノ信心ヲウルナリ二者五重ノ次第宿善ハ第  
一重ニアリ光明ハ第三重ニアリ光明ノ縁ニヨリテ  
宿善熟スル義ナキニ非レトモカノ五重ノ次第ニヨ

リ口傳鈔シカルニ宿善開發スル機ノシルシニハ善  
知識ニアフ上六左テ開悟セラル、トキ一念疑惑ヲ生セサ  
ルナリソノ疑惑ヲ生セサルコトハ光明ノ縁ニアフ  
ユヘナリトノ給フニヨレハ令倒語ノ例ニシテ宿善  
ノ機アリテ光明ノ縁ニモヨホサレテ他カノ信心ト  
イフコトヲエタリト云意ナリ第一解ノ意ナラハ宿  
善開發シテトアルヘシ宿善ノ機アリテノ語意ヲ味  
ヘハ後解ヲ優トスヘシ○コレシカシナカラ弥陀如  
来ノ御方ヨリ乃至イマコソアキラカニシラレダリ  
是兩重ニ他カニ迴向ノ信心ナルコトヲ提示シ給フ如  
来ノ光明ノ縁ニ催サレテ起ル信心ナレハ如来ノ方



ヨリ授ケ給フ信心トハ頭露彰灼ニシラレタリ○カ  
ルカユヘニ行者ノヲコストコロノ信心ニアラス等  
トハ慈愍ニ示シ給フ口傳<sup>上七左</sup>ニ往生ノ信心ノサタマ  
ルコトハワレラカ智分ニアラス光明ノ縁ニモヨホ  
シソクテラレテ名号信知ノ報土ノ因ヲウトシルヘ  
シトナリコレヲ他カトイフトノ給フ意也○弥陀如  
來ノ御恩ノアリカタキホトヲヨクオモヒハカリ  
テ等 五帖目ニハ弥陀如來ノ御恩ヲオモヒハカリ  
テトアリテアリカタキホトヲヨクノ十余字チシ  
○アリカタキト云語叔世ノ平話ノヤウニ思ヘトモ  
源氏桐壺卷ニモカクアリカタキ人ニ對面シタルヨ

ロコヒト昏ケリ○オモヒハカリテトハ思量ノ字也  
安樂集<sup>四十五右</sup>上曰何不思議都无去心也今ハコレ仏恩ノ廣  
大遠近ナルヲ思量スルナリ又オモヒハカリテハ慮  
ノ字ノ訓ナリ

第十四通

夫越前ノ國ニヒロマルトコロノ秘法門トイヘル  
コトハ等 越前ノ國ニ弘マル邪義ノ中ニ今ハ秘法  
法門トイヘルコトハトアレハ給ル、方ナク如道カ  
立~~ル~~所ノ新義ナリ大町ノ如道田嶋ノ行如並ニ覺如  
上人ノ御勸化ヲ受シ法徒タルコト慕歸繪詞<sup>十六</sup>及  
及古裏<sup>六十三右</sup>ニ明白ナリ然ルニ越前ノ三門徒ノ家々如道



ハ祖師ノ御直身ナリトシテ相兼ヲ立ツ如道ハ高田ノ真仏上人弟子ニ遠江ノ國窪見ノ專信房專海トイフ人アリソノ專海ノ弟子和田ノ四善ソノ四善ノ弟子知道是ナリ六十三右又古裏日カノ四善ノ弟子越前ノ國大町ノ知道トイフ者アリ田嶋ノ與宗寺行如和田ノ信性アヒトモニ覚如上人御在國ノ中御勸化ヲ受ラレシ法徒ナリ然ルニ御上洛ノ後法流ニヨイテ知道新美ヲ立テ秘支法門ト云事ヲ骨張セシカハ御門徒ノ面々カタク糾明ヲナシ自今以後出言アルヘカラサルム子起請文ヲカ、シメ改悔アリシカトモ猶ヤマスシテ諸人迷乱アリシカハ申アケラレ御門徒ヲハ

ナサレ畢又然トモ邪義ヲツノル及横越ノ道性齋屋ノ如覚中野ノ坊主此旨ヲツタヘ今ニ余殘アリテ三門徒オカマノ衆ト号スル者ナリ然トモ蓮如吉崎御在津ノ時ヨリ大略心中ヲアラタノ本寺へ皈參セシム文是ニヨルニ改邪鈔ニ訶責スルハコノ知道カ邪義ノ衰ト見エタリカノ鈔曰シカルニ凡聞ノ邪義ノコトクシハ廢立ノ一途ヲステ、此土他土ヲワケス淨穢ヲ分別セス此土ヲモテ淨土ト稱シ凡形ノ知識ヲモテカタシケナク三十二相ノ仏体トサタムラシト淨土ノ一門ニオイトハカ、ル所談アルヘシトモ方外ヘス下根愚鈍ノ短慮オホヨス迷惑スルト



コロナリ己身ノ弥陀唯心ノ浄土ト詠スル 聖道ノ宗  
 義ニ差別セルトコロイツクソヤモトモ荒涼トイヒ  
 ツヘシホノカニキクカクノコトクノ所詠ノ言語ヲ  
 マシフルヲ夜中ノ法門ト号スト云マタキク祖師ノ  
 御解釈教行証ニノセラル、トコロノ顯彰隱密ノ義  
 トイフモ隱密ノ名言ハスナハチコノ一途ヲ顯露ニ  
 スヘカラサルヲ隱密ト釈シタマヘリト云コレモテ  
 ノホカソ 僻韻欵カノ顯彰隱密ノ名言ハワタクシナ  
 キ御釈ナリソレハカクノコトクヨハミタル邪義ニ  
 アラス子細多重アリコトシケキニヨリテイマノ要  
 須ニアラサルアヒタコレヲ略ス 文 是ヲモテ其邪義

ノ大略ヲ見ツヘシツ子ノ正義ノ御勸化ヲ一往顯露  
 ノ義トシ己カ骨張スル 邪義ヲ再往隱密ノ正義トシ  
 初心ノ輩ヲ迷ハシ隨逐スルコト功久シキ者ヲ扱テ  
 深夜ニ及テ密室ニ於テ秘事ヲ勸ムソノ義多クハ機  
 法一体ノ詠ヲ本トシ唯心ノ浄土己身ノ弥陀コノ肉  
 身ノ外ニ何ノ浄土何ノ弥陀アラント立テ、泥木塑  
 画ノ仏像ヲ拜マス故ニ三門徒オカマスノ衆ト云ハ  
 是ナリタマク礼スルニモ掌ヲ曲テ己カ身ヲ拜ムコ  
 レヨリ諸神諸仏菩薩ヲ土苴ノ如クニ輕ンシ諸法諸  
 宗ヲ誹謗スマコトニ大慢ノ外道ノ類ナリ今ノ世コ  
 ノ邪義コ、カシコニ秘シ傳テ明々タル御正意ヲ還



テ一往頭露ノ義トシ秘シ傳ル邪義ヲ相傳ノ実義ト  
 勸ル一類有ト聞ユ吾祖及蓮如上人泣涕ヲソ、キ給  
 フラン痛傷スヘキノ甚シ因ニ是ス三門徒ノコト雪  
 窓老人イハク越前大町ノ知道本ト覺如上人ノ直弟  
 ナリシカ後ニ新義ヲ立テ子孫ニ至テ知道ヲ闕基ト  
 シ祖師ノ教ヲ曲テ邪義ヲ放マ、ニスソノ後籍江ノ  
 如覺横越ノ道性ミナ當流ニ違セントテ暫ク知道カ  
 邪義ヲ学ヒ後ニ各別家トナル蓮如上人山科ニ本山  
 ヲシノ給フ時改悔皈參スソノ中一家中野專称寺令  
 ニ當家ニ随ハスカノ專称寺ハ頭如上人ノ時當国一  
 揆ノ頭トナル故ニ遂ニ織田家ノ為ニ戦歿シ門徒ハ

ミナ與正寺門跡ニ附ス寺ハ新絶スソノ遺胤ヲ三国  
 ノ勝授寺ト云今謂クコノ説正否知カタシ今時ニテ  
 ハ横越ノ証誠寺清水頭ノ毫攝寺ハ本ト一室ニシテ  
 今ハ兩寺トナル並ニ青蓮院ニ隸シテ彼山ノ院家ナリ  
 籍江ノ誠照寺モ同ク青蓮院ニ隸シテ院家ナリ中野  
 ノ專称寺ハ本ト專修寺ニテ退轉ス往古ハ本願寺ノ  
 末寺タリシカイマハ福井ニアリテ妙法院ニ属シテ  
 カノ山ノ院家トナレリト官廷ノ御尋ニツキ書出シ  
 アレハ雪窓ノ説違ヘルニヤト見エタリカノ知道カ  
 秘支法門ハ聖道門ニモ非ス亦淨土門ノ教ニモアラ  
 サレハ更ニ仏法ニテハナシ等トノ給フタ、仏ヲモ

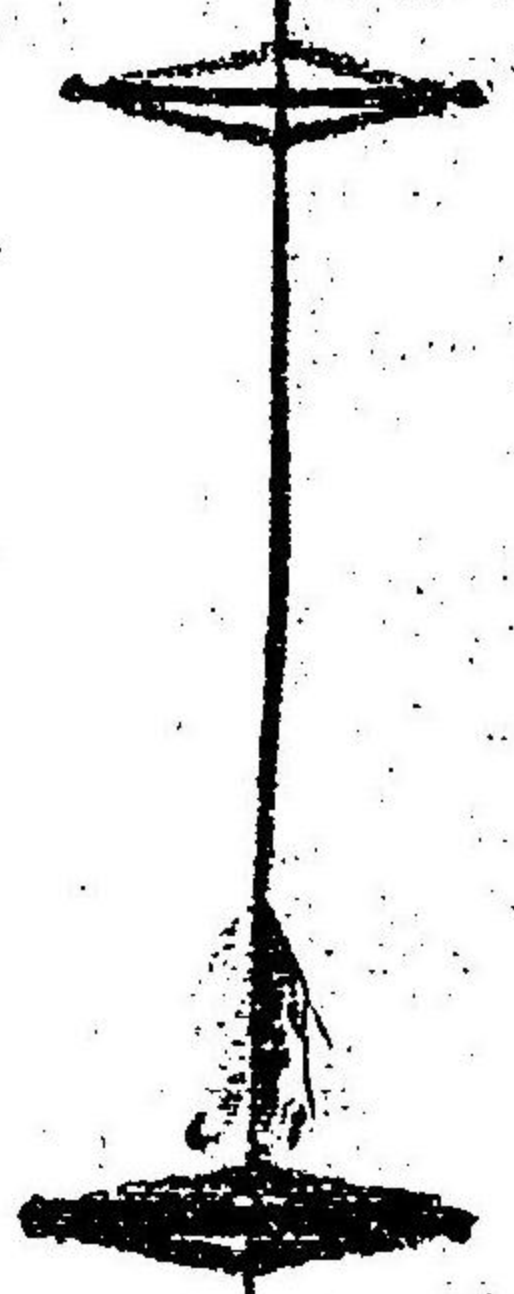


拜マスモシ合掌礼スレハ掌ヲ曲テ已身ヲ拜ム本仏菩薩及諸神ヲ土苴ノ如ク輕ンスルノミニ非ス改邪本鈔ニヨレハ九形ノ知識ヲオサヘテ如来ノ色相ト眼見セヨト勸ムト聞エコレ豈仏法ナランヤマコトニ外道ノ法ト謂ヘシ○外道ト三論本玄義四日至妙虛通目之為道心遊道外故名外道文十二門疏下三曰道不曾内外随入行道自成内外耳文央窟魔羅經四十三二九十六種ノ外道皆過劫拘孫陀跋陀羅仏ノ遺法ニ仏惠比丘劫盜ノ難ニアヒテ作ストコロノ形類ヲ見テ諸ノ忘想ヲ起シ各自ヲ見ラ生メ邪見ヲ起ス一ヲ説ク見ツヘシ○コレヲ信スルモノハナカク无間地獄ニシツムヘ

キ業ニテイタツラコトナリ一往生要集上本十四ニ阿鼻地獄ノ因ヲ明シテ曰造五逆罪殺无因果誹謗大乘犯四重虚食信施者墮此中コレニヨルニ虚受信施ノ者ナヲコノ中ニ墮ス况ヤ仏法ニ非ル邪義アサマシキ外道ノ法ヲ信スルヲヤ又上ノ第二通ニコノ信心ヲ獲得セスハ極楽ニハ往生セスシテ无間地獄ニ墮在スヘキモノナリトノ給フト同ク今モ无間ノ重苦ヲ受ル業ト示シテ人ヲシテ恐怖シ速ニ改悔セシ語ノン為ナリ問元祖ノ七箇條録請文ニモ返々天魔ノ類也外道ノシワサナリ往生極楽ノ怨敵也トノ給ヒ改邪鈔本ニモコト実ナラハ付仏法ノ外道歎トノ給ヒ



今モ外道ノ法ナリ无間地獄ノ業ナリトキヒシク惡  
 口誹謗シ給フ苦切語ハ罪ニ非スヤ謂ク智論廿六  
 曰仏弟子白衣得初道若二道使令奴婢故有惡口非不  
 善道扱律儀有二種若綺語若惡口綺語那含阿羅漢无  
 煩惱起惡口但以淨心須惡言教化故惡口綺語阿那含  
 阿羅漢尚无煩惱所起惡口何況仏又カノ論ニ苦切語  
 ニ五種ヲ釈スル第五曰无煩惱心苦切語為教弟子分  
 別善不善法拔衆生於苦難地故是ニヨルニ元祖及改  
 邪鈔モ今ノ御文モ夕、是惡口ニシテ无煩惱心ヲモ  
 テ弟子ヲ教テ苦難ノ地ヲ拔シムル苦切語也ト知ヘ  
 シ○簡要トオモヒテ等 元照ノ孟蘭盆經疏記序



文從簡要義取優長コレ簡約ニシテ一以テ衆ヲ管ス  
 ルヲ簡要ト云○タラストハタフカスノ略語註ノ  
 字也○アリ、マ、ニ懺悔シテ 懺悔ハ第一帖ノ二  
 通目ノ如シ○ナニノ要ソトイヘハ 一以テ衆ヲ管  
 スルヲ要ト云○用意 源氏真木柱卷ニモサマコト  
 ニ用意アリテトイヒ梅枝卷ニモ用意シタマヘルサマ  
 トイヒソノホカ処々ニアリ弓馬ハ兵乱ノ用意兼笠  
 ハ雨中ノ用意ナルカ如ク今ハ往生ノ為ノ用意也○  
 コレスナハチワレヲカ往生ノサタマリタルスカタ  
 ナリ 撰取不捨ノ利益ニ業レハコレ往生心定スル  
 相也○サレハ南无阿弥陀仏トマウス体ハ至イハレ



ヲアラハセルスカタナリトコ、ロウヘキナリ  
レ信心トテ六字ノ外ニハナキヲ示シ給フ次下ノ御  
文ニ信心ヲトルトイフモ別ノ意ニハアラス南无阿  
弥陀仏ノ六ノ字ヲコ、ロエワケタルカスナハナ他  
カ信心ノ体ナリトノ給フサレハ弥陀ノ名ヲキ、エ  
テ南无阿弥陀仏トマウス体ハワレラカ他カノ信心  
ヲエタルカ显ル、相也ト知ヘシ○十右阿弥陀如来ノ御  
タスケアリツル等 御一代聞<sup>十右</sup>昏日御タスケアリタ  
ルコトノアリカタサヨト念仏マウスヘク候ヤ又御  
タスケアラフスル意ノアリカタサヨト念仏マウス  
ヘク候ヤトマフシアゲサフラフトキ御ニイツレモ

ヨシタ、シ正定聚ノカタハ御タスケアリタルトヨ  
ロコフコ、ロ滅度ノサトリノカタハ御タスケアラ  
ウスルコトノアリカタサヨトマフスコ、ロナリイ  
ツレモ仏ニナルコトヲヨロコフコ、ロヨシト仰サ  
フラフナリ然レハ御タスケアリツルコトヲ喜フハ  
正定聚ノ方ナリト知ヘシ

第十五通

抑日本ニライテ浄土宗ノ家々ヲタテ、等 西山鎮  
西九品長楽寺トハ空公ノ歡喜鈔曰西山ト云ハ善惠  
坊証<sup>源流章第六</sup>西山善峰寺ニ住ス故ニ此師ノ傳ル所ヲ西山  
美ト云コノ家四派ニ分ル善惠弟子四人各別美ヲ存



ス一者淨音法與上人ト云仁和寺西谷光明寺ニ住ス  
 コレヲ西谷義ト云禪林寺光明寺コノ義ヲ傳フ二者  
 道觀コレヲ嵯峨義トイヒ亦西山義ト云所住ノ淨金  
 剛院本ト廣隆寺ノ傍ニアリ後ニ二尊院ノ境内ニ引  
 移シ今ニ一院トス三者隆信コレヲ深草義ト云円福  
 寺誓願寺コノ義ヲ傳フ四者觀鏡コレヲ東山義ト云  
 東山宮ノ迂阿弥陀院ニ住スソノ寺今ハ断絶シタリ  
 コノ四派ノ中禪林寺光明寺ヲ首トスル也鎮西ト云  
 ハ聖光坊寺名在阿筑後ノ善導寺ニ在テ弘通スコレヲ鎮  
 西義ト云フ弟子然阿良忠記主上人門侶最モ多シ其  
 中京一條光明院礼阿京三條悟真寺了惠望西接道光

是ナリ小幡尊勝寺慈心是ヲ京都ノ三派ト云鎮倉自  
 旗天照山光明寺寂惠鑑倉名越善導寺尊觀亦云藤田  
 性真是ヲ關東ノ三派ト云上ノ六家各々一義ヲ立ツ  
 是ヲ鎮西ノ六流ト云ソノ六流ノ中四家ハ或ハ絶エ  
 或ハ微ニシテ今ハ白旗名越ノ兩流ノ義タリ九品ト  
 云ハ東山九品寺ノ覺明坊長西諸行本願義ヲ立ツト  
 黒谷上人十合五傳ニ出タリソノ寺ソノ義今断絶ス長樂寺  
 ト云ハ隆寛律師初ハ横川ノ知見坊ニ住ス後ニ淨土  
 門ニ入テ長樂寺ニ住シ多念義ヲ立ツ門侶甚々多シ  
 阿日敬日蓮念信蓮等ナリ已上長樂寺ハナヲ存シテ  
 今ハ時宗トナリ其義断絶セリ○其外アマタニワカ

日本書紀

三十七



レタリ 上ノ四家ハ其中ニモ大家ヲ奉ク其他成覺  
 坊幸西ハ一念義ヲ立テ聖覺ハ說法義ヲ立テ薩生ハ  
 三昧義ヲ立テ明遍ハ道心義ヲ立テ俊承ハ勸進義ヲ  
 立ル等サマクニ分ル具ニハ浄土源流章及仏祖傳集  
 ノ如シ○一途 安樂集<sup>三十八</sup>上曰徑奉大車亦是一途○我  
 本宗ノコ、ロヲイマタステヤラスシテ<sup>至</sup>其不同コ  
 レアリ カノ鐘下坊幸西ノ天台宗タル久習ノ宗風  
 ニ習テ本門ノ弥陀迹門ノ弥陀ト云コトヲタテ、黒  
 谷ノ門下ヲ擯出セラレタリト黒谷上人傳<sup>十ノ廿四</sup>二十九ニ  
 載ルカ如シ縦ト擯出セラレサルモ多クハ久習ノ宗  
 義ヲモテ浄土門へ引入ントセシニ依テ元祖ノ一途

ノ御教ナレトモ御門弟面々ノ心工種々不同コレア  
 リト也問聖道門ニテアリシ旧習ヲイハ、吾祖モニ  
 十九歳マテハ天台ノ学侶ナリ然ラハ吾祖ニ限テコ  
 ノ本習ナシトハ許サレマシ如何謂クコノ責所以ナ  
 キニ非ス然レ凡一概ニハ論シ難シソノ本宗ヲ語ラ  
 ハ元祖吾祖本ト名宗ヲ学フ吾祖二十九歳吉水ニ入  
 室シタチトコロニ他カ撰生ノ音趣ヲ受得シアクマ  
 テ凡夫直入ノ真心ヲ定シマシマセシヨリ親鸞ニ  
 ヲキテハタ、念仏シテ弥陀ニタスケラレマイラス  
 ヘシトヨキヒトノオホセラカウフリテ信スルホカ  
 ニ別ノ子細ナキナリ念仏ハマコトニ浄土ニムマル



、夕子ニテヤハンヘルランマタ地獄ニオツル業ニ  
 テヤハンヘルラン総シテモテ存知セサルナリタト  
 ヒ法然上人ニスカサレマイラセテ念仏シテ地獄ニ  
 オチタリトモサラニ後悔スヘカラスサフラフ等ノ  
 御言歎異鈔三右及執持鈔三左ニ載ルカ如シ元祖ノ御教ヲ信  
 順シ給フコト如是何ノ旧習ノ天竺宗ノ義ヲモテ淨  
 土門ニ引入ントスルノ謂レ有ニヤ思ツヘシ○シカ  
 リトイヘトモアナカチニコレヲ誹謗スルアアルヘ  
 カラス等淨土門ノ中ニソノ不同コレアレトモソレ  
 ヲ誹謗スヘカラスタ、ワカ祖師聖人ノ一流ノ安心  
 ヲ治定シテ自信教人信ノツトメトスヘシト也○コ

ノコ、口コソスナハチ他カ真實ノ信心等 上ノ如  
 ク心ツルカ真實信心ノ相ツト也○アラコ、ロエヤ  
 スノ他カノ信心ヤアラ行シヤスノ名号ヤ 此帖第  
 七通ニハアラコ、ロエヤスノ安心ヤ又アラユキヤ  
 スノ淨土ヤトノ給フ安心トイヒ信心ト云一ツ意也  
 ○ステニ正定聚ノカスニ住スカルカユヘニ凡身ヲ  
 ステ、仏身ヲ証スルトイヘルコ、ロヲスナハチ阿  
 弥陀如来トハ申ナリ 是阿弥陀仏ト云ハタノム衆  
 生ヲ助ケ救ヒ凡身ヲステ、仏身ヲ証セシムル法ヲ  
 阿弥陀如来トハ申ナリト也凡身ヲステ、仏身ヲ証  
 スルトハ究竟ノ妙果ヲ証スルヲ仏身ヲ証スト云善



導ノ捨此穢身即証彼法性之常樂トノ給フ意ナリ律  
 宗ノ用欽ノ良以此法轉凡成聖猶及掌乎大為容易卷信  
本ノ五十四之ト釈スルモ此意ナリカノ改邪本三十三鈔ニコフ一念ヲ他  
 カヨリ得シヌルノチハ生死ノ苦海ヲウシロニナ  
 シテ涅槃ノ彼岸ニイタリヌル條勿論ナリトアルヲ  
 以テ信心ヲ發得スレハモハヤ岸上得脱ノ大涅槃ノ  
 沙果ヲ証ストイヒ紛カシテ現生大涅槃ノ邪窟ニ墮  
 ス改邪鈔ニ所謂涅槃ノ彼岸ニイタリスルトハ即正  
 定聚ニシテ仏ニナルヘキ身ト定マルナリ故ニ真要  
本九右鈔ニ一念歡喜ノ信心ヲオコセハ煩惱ヲ断セサル具  
 縛ノ凡夫ナカラスナハチ涅槃ノ分ヲウトノ給フト

同レ涅槃ノ分ト云ハ即正定聚ノコトナリト御一代  
八十二右聞各ニ載ラレタリ人コノ宗ヲエテ宗途ヲ乱ルコト  
 莫レ○サレハ阿彌陀トイフ三字オハラサメタスケ  
 スクフトヨメルイハレアルカユヘナリ 古來人多  
 ク穿鑿シテ種々ノ異解ヲナス或ハ謂フ四十二字門  
 ノ意也ト或ハ謂ク阿ハ本不生ノ義彌ハ不可得ノ義  
 陀ハ如々ノ義故ニオサノタスケスクフトヨメリト  
同上或ハ謂フ惠心ノ觀心略要集等ニ阿彌陀ノ三字ヲ三  
 諦ニ配スルニヨレハ空ハ包容ノ義ヨク万象ヲ納ム  
 故ニ空諦ノ阿ヲオサノトヨム仮諦ハ万法ヲ成立シ  
 テ一法ヲ毛泯セヌ万象ヲ安立スレハ仮諦ノ彌ヲタ



スクルトヨム中諦ハ非空非仮空ニ非レハ仮ヲ救ヒ  
仮ニ非レハ空ヲ救フ故ニ中諦ノ陀ヲスクフトヨマ  
シムモシ翻名ノ无量壽ニヨラハ先ノ字空ノ義明カ  
ナリ量ノ字分量ニシテ法々塵々ヲ指示ス即仮諦ナ  
リ壽ノ字ハ壽命壽ハ万有ヲ持ツノ謂ナレハ中道實  
相ノヨク空仮ヲ持スル義ニ忘ス故ニ壽ヲ救フトヨ  
ムヘシト云云梵語ノ仏ヲホトケト和訓シ素門ヲヨス  
テヒト、和訓スルヲ例トシテ漢字ニ和訓ヲツクル  
モ梵語ニ和訓ヲツクルモ同シコト也トイヘリ今謂  
梵字ヲ漢字ニウツスニ對訳ノ文字經論ノ説大ニ同  
シカラス阿弥陀亦阿彌哆ニ作ル何ソ對訳ノ文字ニ

就テ義ヲ論センヤ惠琳ノ一切經音義ニ梵語不來字  
義ト定判スカノ李長者ノ華嚴合論未考十五ノ三右及張天覺カ楞嚴  
合論ニ三昧ノ梵語ヲ三八根境識ノ三トシ昧ハ茫昧  
ノ義トシ世説ノ註ニ善普薩濟也ト解シ世事通考ニ  
和尚ノ梵語ヲ解シ唐詩訓解ニ南无ノ梵語ヲ義ヲツ  
ケテ解スルカ如キハコレ梵語ノ對訳ニ字義ヲ求ム  
ヘカラサルヲ知サルカ故ナルノ今ノ御言ハ叢林  
集二載ハ手書ラレタル空也上人ノ六字口傳ト題シタル一  
卷ニ南无阿弥陀仏ト唇テハオサノタスケスクフホ  
トケ外ニナシトヨムトイヘリ今ノ世ニモ空也堂極  
樂院ニ於テコノ六字口傳ヲ誦誦ストナリ外ニナシ



183  
6  
215

ト云ハ南无ノ字ノ意ト見ユ南ハ陽ナリ北ハ陰ナリ  
陽ハ外ナリ史記王世貞カ叙ニ陽為慕之而陰与悖ト  
云陽ノ字ノ如シ是蓮如上人殆テオサメタスケスタ  
フトヨムトノ給フニ非スカノ六字口傳ノ語ヲ取用  
テ上ニ速給フ義ヲ助成シ給フ故ニヨノルイハレア  
ルカユヘナリト示シ給フ若義ニ就テ解セハ礼讚六右日  
弥陀經及觀經云彼仏光明无量照十方国无所障碍唯  
觀念仏衆生攝取不捨故名阿弥陀コノ文ニオサメタ  
スケスクフ義備ハレリト知ヘシ

天明四甲辰冬十月廿日起筆十一月十七日夜絶筆

御文記事珠第三終



